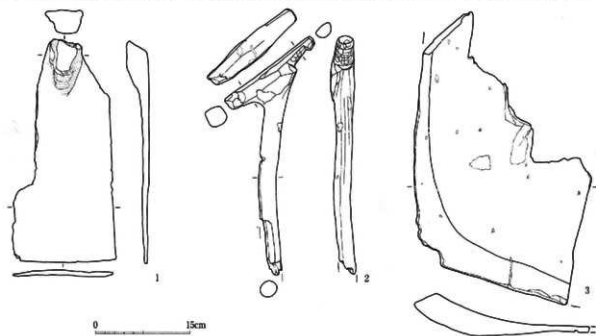
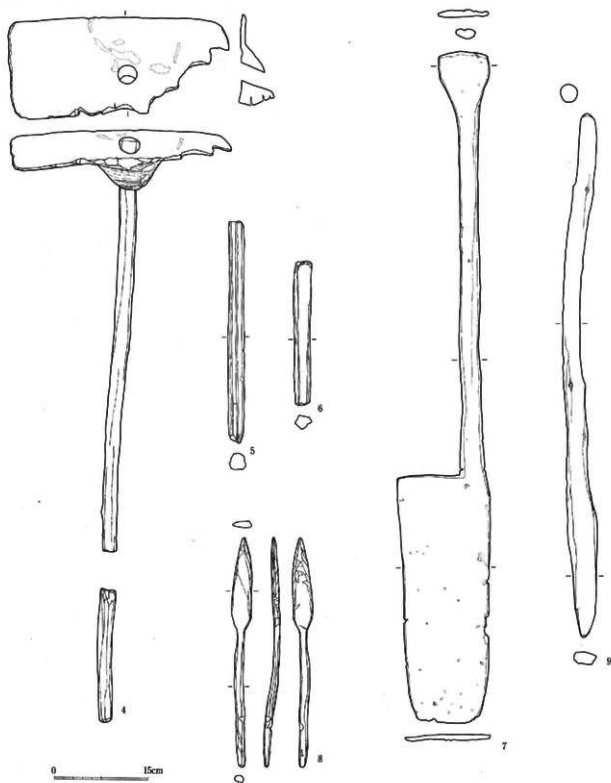


(5・6)・板状製品(14・15)そして加工痕のない自然樹木(枝付)等がある。横鎌は身部と柄が装着した状態で出土した。身部は長方形を呈し、中央上部に鋭角に穿孔された瘤状突起を有する柄受け穴をもうける。柄は芯のある加工丸材を用いる。身部は横幅35.5cm・縦幅15.5cm・厚0.7cm・瘤状突起高5.5cmを測る。柄の直径は2.5~2.0cmで、65cm程が残存し、柄の末端と思われる21cmを測る棒状製品がある。平鎌は身部のみの出土で、柄孔の上部と身部の一部を欠損する。残存部位から形態は長方形を呈するが上部にかけて横幅を漸減するようである。後面に瘤状突起が認められることから直柄型式のものであろう。刃部幅は15.8cm・身部厚は中央で1.0cm・瘤状突起高3.4cmをそれぞれ測る。鎌は一木平鎌と呼ばれるもので、把手から刃先まで一枚板から作り出している。把手は平板で三角形に作られ、柄は楕円形を呈する。身部は長方形を呈するが平鎌と逆に刃部に向かって横幅を漸減し、刃部は丸味を帯びる。身上端の足踏み用の床は水平で柄に対して片方のみに作られる。全長106.5cm・把手から柄部67.0cm・把手幅7.5cm・柄部長軸3cm前後で、身部縦幅39.5cm・横幅14.5~9.5cm・厚1cm前後の規模になる。腰柄は曲柄鎌の装着具で、自然木の枝から作られている。着装台は平坦で、着柄軸を結縛部の背面には挟り込みがみられる。残存長37cmで、着装台長15.6cm・幅2.4~3.5cmを測る。槽状製品は中央が影らむ隅丸長方形を呈するものと思われる。全体の重量は不明であるが、短辺の直線面は32cm前後になる。6・7の断面が不整形を呈する棒状製品は農具の柄の可能性が高い。6は残存長34.3cm・7は22.5cmである。直径は共に2.5cm前後である。武器類のうち2個の盾については第4章で項を改め橋本氏の玉楯を掲載する。弓または未製品と想定するものが5本出土している(9~13)。10は片側に細かい加工痕がみられ、両端部を削り取るにより弓筈を作り出している。全長44.53cm・中央部幅2.2cmである。13は両側に若干反るが上端部の末筈が削り取られていることから弓とみてよいだろう。全長35cm・中央部幅1.4cmである。12は下方の本筈部付近が欠損している。末筈は2cm程明確に削られている。残存長41.2cm・中央幅1.7cmである。11は末筈部付近を欠き、本筈部に不十分な削り込みが認められることから弓の未製品と考えられる。残存長46.1cm・中央幅2.3cmである。10も両端部に弓筈が作られていないが、材の張り状の加工から弓の未製品と思われる。全長83cm・中央幅2.7cmである。槍先は完形品が1本出土しており、身部と莖部は一枚板から作り出され、全長は36.4cmである。身は柳葉形を呈し、先端から基部まで14.3cm・基部幅3.1cmを測る。莖の断面は幅1.5cm程の楕円形に加工される。14・15は板材と思われるが用途

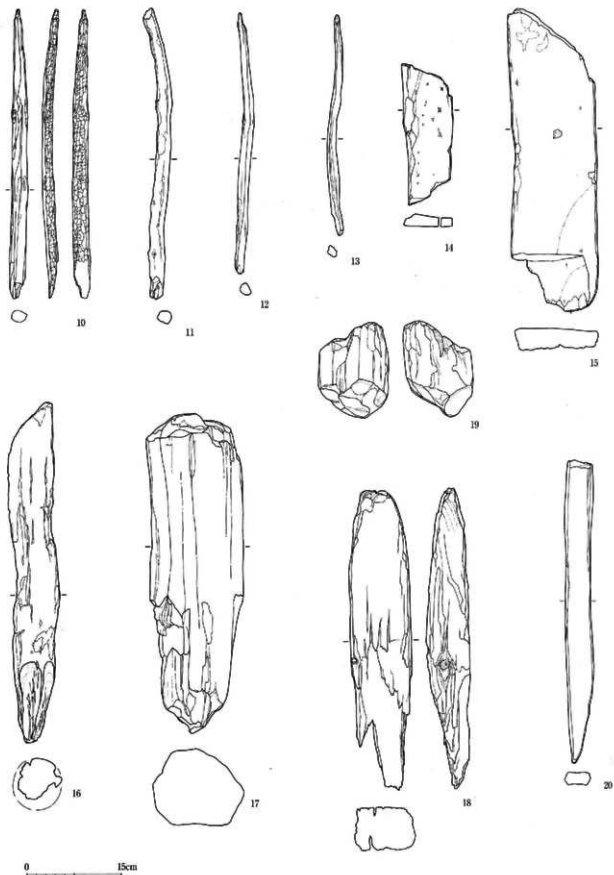


91図 木製品実測図①(1:6)

は不明である。15は完形品であるとするれば、横楾または柄振の未製品の可能性がある。16・17・19は丸太材に加工を加えた杭と推定される。18は角材、20は割板材を用いている。杭の先端は鈍器状工具により切り落としてい
 る。16は残存長55cm、17は完形品で全長50cm・中央幅14.5cm、18は残存長47cm、19は残存長15cm、20は残存長47
 cmをそれぞれ測る。



92図 木製品実測図②(1:6)



93圖 木製品実測圖③(1:6)

第4節 石製品

本遺跡より出土した石製の遺物は総数217点である。このうち石器の製作過程で生じた剥片や砕片等の石屑、原石や石核などを除いた資料は98点ある(94~101図)。内訳は打製石鏃1点、磨製石鏃1点、磨石6点、敲石10点、みがき石8点、台石2点、凹石1点、刃器35点(大形34点、小形1点)、磨製石包丁1点、太型鋸刃石斧5点、扁平片刃石斧4点、ノミ状石器1点、両刃石斧1点、石槌6点、砥石10点、軽石製品2点、玉類3点、紡錘車1点である。

石核 5点出土している。「大形剥片石器用素材」と判別できる資料には珪質頁岩材2点がある。「小形剥片石器用素材」にはチャート材3点がある。1は珪質頁岩材の剥片を素材とし、剥離面を利用しての打面転移による剥片剥離を行っている。打面転移は2回で、いずれも90度である。最終的な剥離痕は長さ4.6cm×2.1cm程度の縦長剥片である。

剥片・砕片 剥片剥離作業の過程で弾き出された石屑のうち石器の素材となり得る程度の大きさを持った例を剥片、それより小さな例を砕片とする。総数114点出土している。「大形剥片石器」用の剥片71点、砕片28点、「小形剥片石器」用の剥片9点、砕片4点がある。また素材の両端に対向する剥離痕を留め「挟み打ち」技術の介在を想定させる「楔形石器」が2点ある。2はチャート材の剥片を素材とし、四方からの加撃が行われ、上・下端部には細かな剥離痕が認められる。長さ3.4cm×3.9cm、重さ17.8gを量る。3はチャート材の剥片を素材とし、左右からの加撃による細かな剥離痕が認められ、長さ4.6cm×4.5cm重さ46.7gを量る。4・5はともに粘板岩材の加工痕のある剥片である。石器製作の初期段階での失敗により、目的の器種を確定できない資料である。

打製石鏃 1点出土している。6は黒曜石材の凸器無茎式で、先端部が大きく欠損している。左右側辺部の形が統一されていないことと全体的に厚みがあることから、完成度は低いと思われる。

磨製石鏃 1点出土している。7は表裏両面が研磨された片岩材の未製品である。整形段階で側辺部が欠損したものとと思われる。

磨石 6点出土している。材質は硬砂岩材4点、安山岩材1点、ホルンフェルス材1点である。8・9は硬砂岩材の扁平な礫を用い、表・裏両面に磨面が認められる。10は安山岩材の扁平な礫を用い、表裏面に加え側面にも磨面が認められる。1/3程度の欠損がある。

敲石 10点出土している。材質は硬砂岩材5点、砂岩材2点、シルト質砂岩材1点、花崗岩材1点、チャート材1点である。11・12は砂岩材の礫を素材とし、上下端部に敲打痕がある。表裏両面にはっきりとした磨面が認められることから、磨石としても用いられていたと思われる。特に12は扁平であり煤状付着物も認められる。重さ79.3gを量る。13~16は硬砂岩材の棒状の礫を素材とし、長軸の両端部もしくは一方にアバタ状の敲打痕が認められる。なお、14は側辺部にも敲打による欠損がみられる。重さ256.6gを量る。17は花崗岩材の礫を素材とし、上下両端部および表裏両面に敲打痕がみられる。赤色付着物が認められ、重さ607.3gを量る。18はチャート材の棒状の礫を素材とし、上下端部にアバタ状の敲打痕を認める。重さ104.7gを量る。19はシルト質砂岩材の棒状の礫を素材とし、表裏面および側面にスジ状の敲打痕跡を認める。また全面にわたって磨面がみられ、みがき石としての機能も有していたと思われる。重さ91.8gを量る。

みがき石 主に河原石を素材とし8点出土している。材質は粘板岩材4点、硬砂岩材1点、安山岩材1点、頁岩材1点、チャート材1点である。20は頁岩材の礫を用い、半球状の全面にわたって細かな織状痕が認められる。重さ61.1gを量る。21はチャート材の礫を用い、平面上に使用痕跡が認められる。重さ35.8gを量る。22~24

は粘板岩材の礫を用いた例である。いずれも全面を使用しており、24は口ウ状の光沢がみられる。また23・24は白色付着物が観察され、1/3程度欠損がある。重さは22が28.3g、23が72.2g、24が31.5gを量る。25は安山岩材の礫を用いた例で、表裏面に線状痕が認められる。重さ149.2gを量る。

台石 2点出土している。材質は2点とも輝石安山岩である。26は1/2程度欠損があるが、残存している表面には明瞭な線状痕が認められる。側面および縁辺を敲打成形している。重さ3,672gを量る。

凹石 1点出土している。27は安山岩材の礫を素材とし、半分程度の欠損がある。凹部の直径は約8cm、深さは2.2cm程度である。

刃器 35点出土している。「大形剥片素材の刃器」は34点あり、材質は粘板岩材13点、シルト質砂岩材15点、輝石安山岩材2点、安山岩材1点、珪質岩材2点、硬砂岩材1点である。素材の片面が自然面に覆われた一次的な剥片を利用した例や、刃部または背部に調整剥離加工を施した例があり、刃部に摩耗・光沢・線状痕および潰れのいずれかを確認できる例が10点ある。29は粘板岩材の縦長剥片を素材とし、背部加工はみられないが、刃部に明瞭な摩耗・光沢・線状痕と微細な剥離痕が観察できる。刃部は外弯で刃角55度を測る。33は粘板岩材の縦長剥片を素材とし、刃部以外に剥離調整を行い楔形石器状を呈している。刃部に微細な剥離痕が観察され、刃角33度を測る。34は粘板岩材の縦長剥片を素材としたナイフ状の刃器である。背部に抉りがあり、刃部に微細な剥離痕が認められる。刃角60度を測る。40は輝石安山岩材の横長剥片を素材とし半分程度の欠損があると思われる。刃部に剥離調整を施し摩耗・潰れが観察される。刃角90度を測る。41は輝石安山岩材の縦長剥片を素材とし、刃部および背部に剥離調整を行っている。刃部に摩耗・潰れを観察し刃角48度を測る。42は珪質岩材の円形の剥片を素材とする一次的な剥片であるが、全周に摩耗・光沢痕が観察される。刃角16度を測る。43は珪質岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・線状痕が観察される。刃角90度を測る。44は硬砂岩材の一次的な横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・光沢・線状痕を観察する。石包丁形を呈し刃角50度を測る。45は粘板岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・線状痕を観察する。刃角66度を測る。「小形剥片素材の刃器」は1点ある。46は黒色頁岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・光沢痕が観察される。楔形石器状を呈し、刃角26度を測る。

磨製石包丁 1点出土している。47は安山岩材の剥片を素材とした未製品である。表裏面に研磨が施されているが2/3程度の欠損がある。

太型蛤刃石斧 製品3点、未製品2点の合計5点が出土している。材質はすべて変質輝緑岩材である。48は敲打整形段階の未製品である。打裂による刃部の成形も行われている。長さ19.0cm、重さ1,745gを量る。49は刃部への研磨整形加工を施した未製品である。1/3程度基部の欠損があり、現時点での刃角は73度を測る。50は基部の大半を欠損した製品である。刃部は使用による損傷が著しく、剥落・摩耗・光沢痕が観察される。刃幅6.7cm、刃角69度を測る。

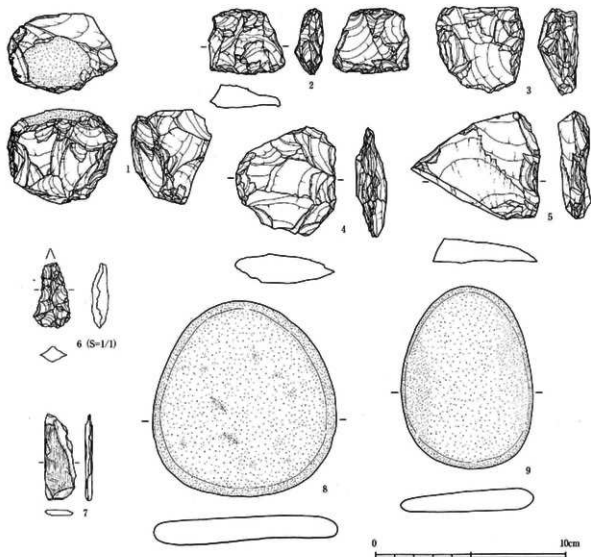
扁平片刃石斧 製品2点、未製品2点が出土している。材質は蛇紋岩材1点、珪質岩材1点、粘板岩材1点、玄武岩材1点である。51は珪質岩材の横長剥片を素材とした打裂成形段階の未製品である。敲打痕跡は見られないが、少量の研磨が認められる。長さ5.4cm×3.3cm、重さ19.2gを量る。52は蛇紋岩材の製品である。刃部に摩耗・線状痕が観察され、刃幅2.8cm、刃角42度を測る。また全体形は小形で長さ4.6cm×2.9cm、重さ13.8gを量る。

ノミ状石器 1点出土している。53は片岩材の製品である。使用痕は認められないが、刃幅1.1cm、刃角60度を測る。

両刃石斧 1点出土している。材質は変質輝緑岩材である。54は同一遺構内から基部と刃部が分割された状態で出土し、接合した製品である。頭部に一部敲打痕跡が残る。刃部は摩耗・線状痕および潰れが明瞭に観察され使用頻度の多さをうかがわせる。刃幅5.4cm、刃角48度を測る。

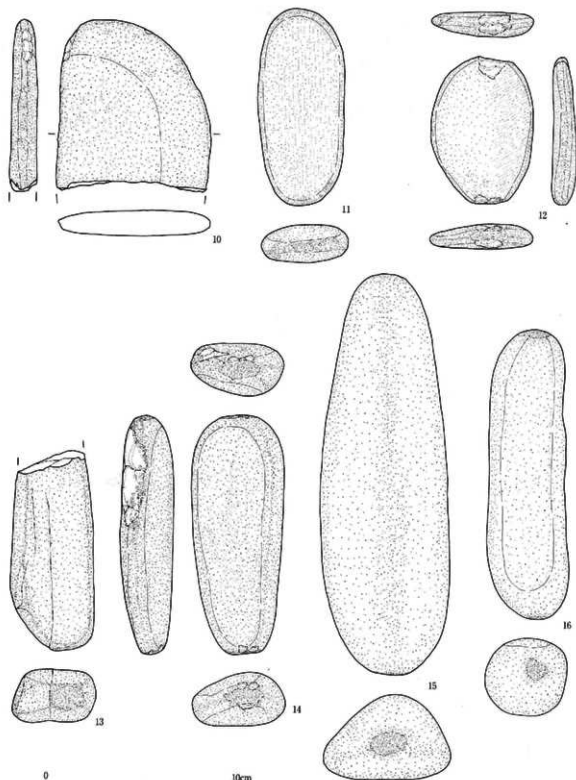
石槌 6点出土している。材質は変質輝緑岩材2点、玄武岩材1点、硬砂岩材2点、砂岩材1点である。55・56は変質輝緑岩材の蛤刃石斧の基部を転用した例で、機能部の摩耗は僅かである。表裏および両側面に敲打によるアバタ痕が顕著にあり、装着用とも考えられる。57は玄武岩材の蛤刃石斧基部の転用例である。機能部は顕著に摩耗し鏡面状を呈している。頭部に敲打痕跡が残り、機能部周辺と裏面に著しい剥落が認められる。58・59は硬砂岩材の礫を用いた例である。58の機能部に摩耗・光沢が明瞭に観察される。60は砂岩材の礫を用いた例で、機能部の使用痕跡は僅かであるが、頭部に明瞭な敲打痕が認められる。

砥石 10点出土している。軽量で手に保持して使用する手持ち砥石は8点あり、材質は砂岩材4点、硬砂岩材2点、玄武岩材1点、石墨片岩材1点である。地面等に固定して使用する置き砥石は2点あり、材質は砂岩材1点、硬砂岩材1点である。61は砂岩材の置き砥石である。機能部は表表面および全側面にわたり、表面には長さ8.1cm、幅1.8cmの範囲内に顕著な溝や筋状の痕跡が何本も認められる。62~64は砂岩材の手持ち砥石で3点とも1/3程度の欠損がある。63は機能部が上部側面を除き全面にわたり、表表面ともに顕著な使用痕跡が認められる。軽石製品 2点出土している。65・66はともに面状の砥面(?)を有し、半分程度の欠損がある。特に66は全側面にわたって砥面(?)が認められる。

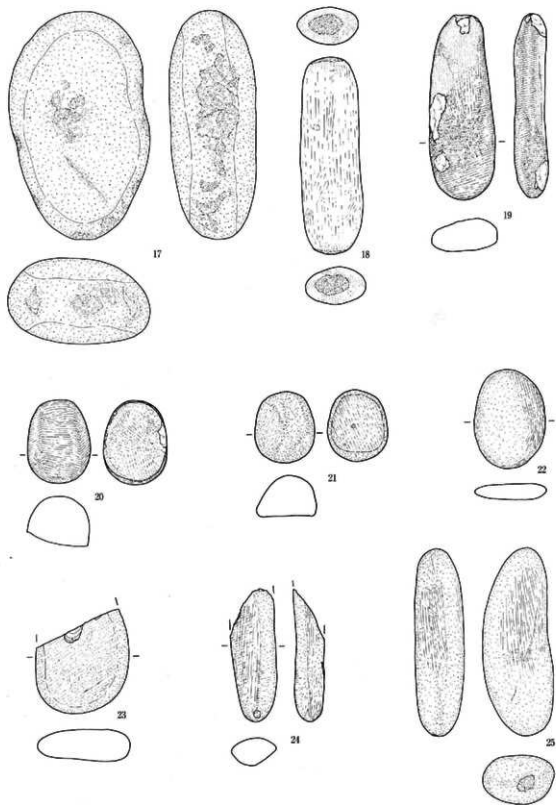


94図 石器実測図① (1:2)

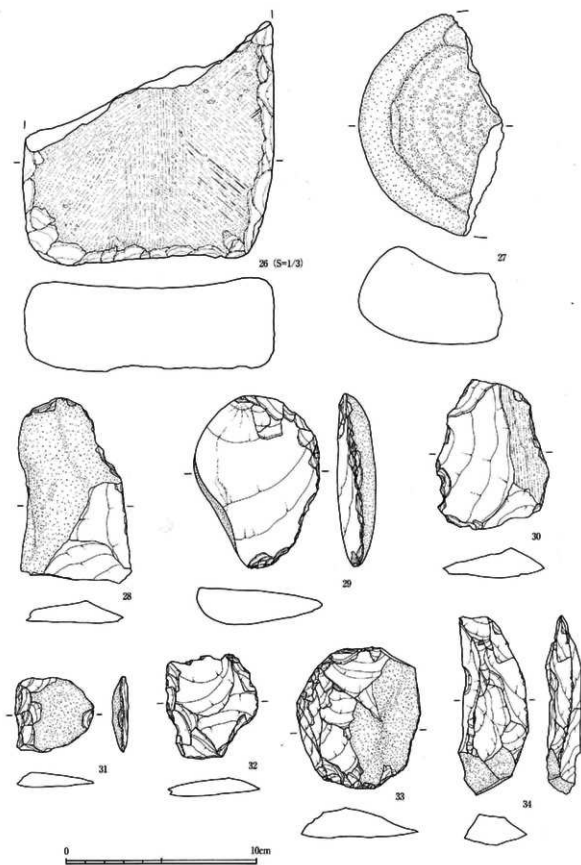
玉類 3点出土している。ヒスイ材の白玉1点(67)、ガラス玉1点(68)、黒色頁岩材の管玉1点(69)である。
 紡錘車 糸を紡ぐときの回転軸のはずみ車に使用されたもので、欠損品が1点出土している。70は蛇紋岩材の直径4.7cm程度と推定される紡錘車の一部である。表面に研磨による光沢があり、孔の縁辺には使用痕とみられる筋状の溝が時計周りに認められる。



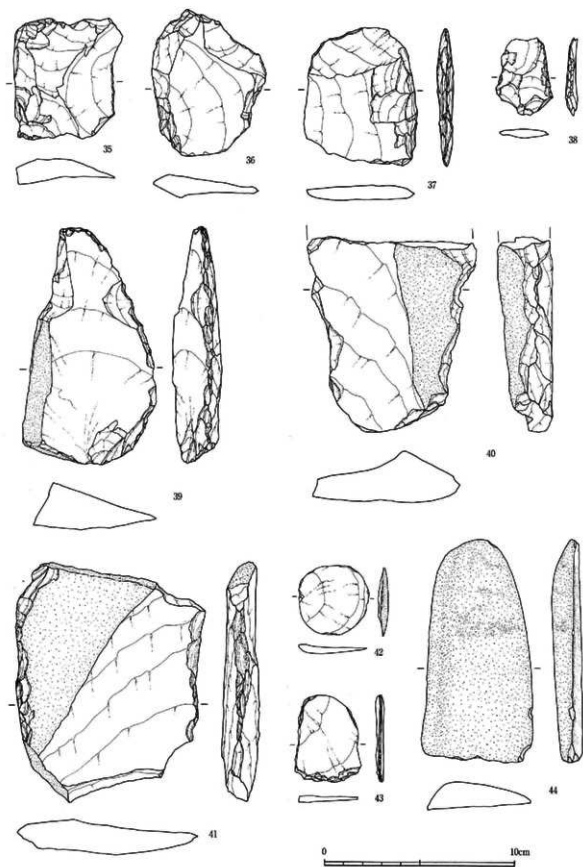
95図 石器実測図②(1:2)



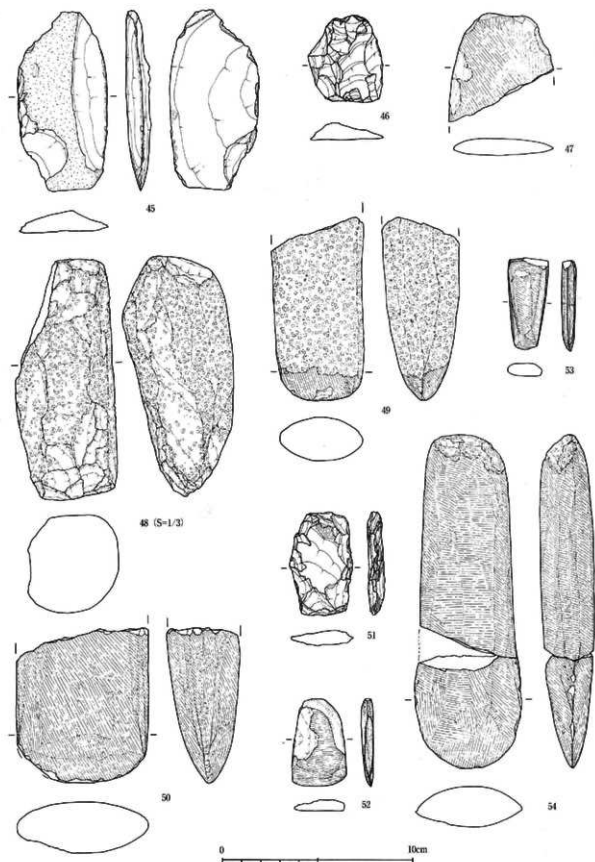
96图 石器实测图③ (1:2)



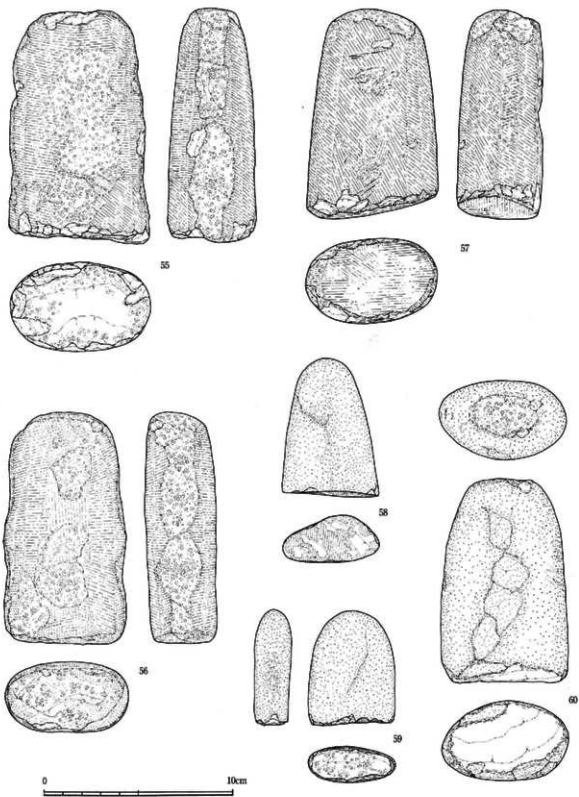
97圖 石器実測圖④ (1:2)



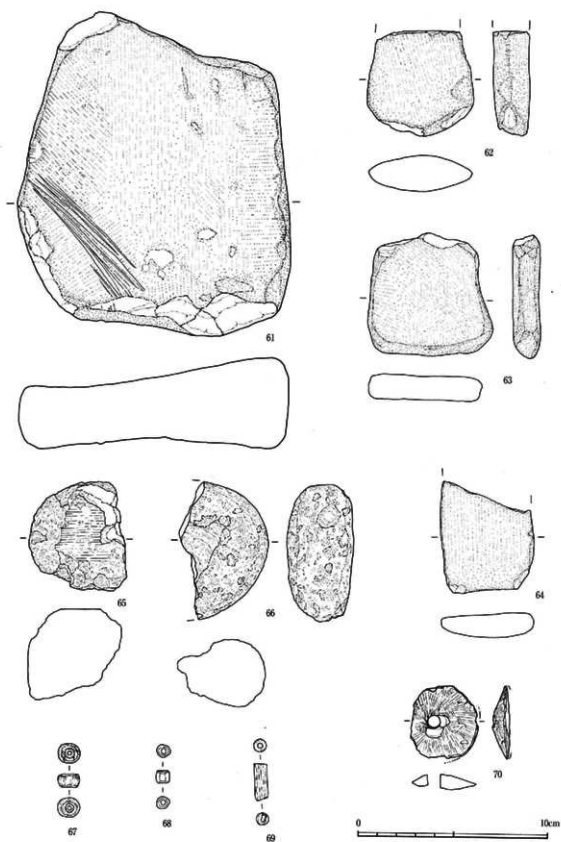
98图 石器实测图⑤ (1:2)



99图 石器实测图⑥ (1:2)



100图 石器实测图②(1:2)

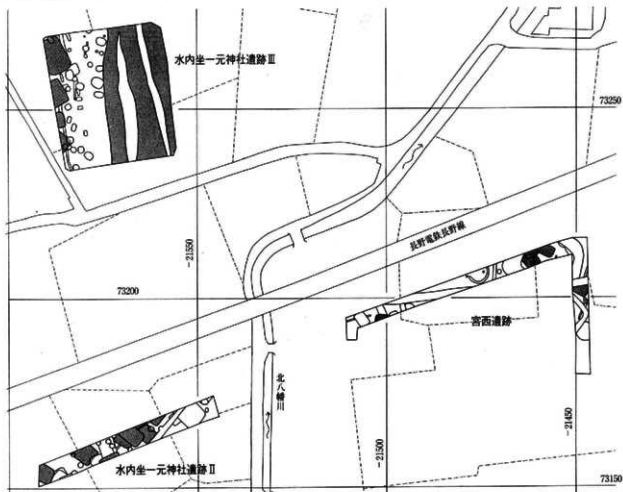


101图 石器実測図⑧(1:2)ならびに玉類実測図(2:3)

第4章 考 察

第1節 環濠と集落

環濠はA号・B号の2条の大溝で形成されているようであるが、調査地北端で合体し1条の溝になるようである。また、南端付近においてもB号溝址の内側上端の曲線からこの傾向がうかがわれる。この推測が正しければ土壘と称した中央の土盛りは意識的に造られた祭祀的な場の可能性がある。実用性の無い弓・槍先・裝飾盾等の武器形木製品は環濠の性格を裏付けるとともに、枝付の自然木や農耕具等の木製品と共に祭祀の一翼を担った祭祀具と考えられる。B号溝址の最下層から出土したことも重要な意味をもっているものと思われ、弥生時代終末期の時代比定と祭祀後のあり方を暗示しているようである。それは、外周の断面扁平U字形のB号溝址に遺棄している点からV字形を呈するA号溝址の優位性と、祭祀行為の短期的な一時性をものがたっている。5・4層の出土土器には在地のもの他に北陸系や東海系の土器やその影響のもとに作られた在地系の土器がある。土器の取り上げ方によるものか一部に混在がみられるが、5層出土土器の方が在地系弥生時代後期・箱清水式土器そのものが多く認められる。これに対し4層のものは在地系土器に形態や文様構成に変化がみられ、更に北陸系や東海系に系譜を求めることができる器種が増加する。二層間における時間的差はほとんどなく継続的關係にあるも



102図 調査地と近隣遺跡の弥生時代後期主要遺構分布図 (1:1,000)

のと思われる。土器の他地域との交流にみられるように弥生時代の解体期を迎え、政治的・文化的揺籃からの緊張から環濠の形成と、土壘上では農耕祭祀というよりも武器形木製品を伴う戦闘祭祀が行われたものと考えられる。こうした意味から環濠は弥生時代後期終末期に機能し、その後徐々に埋没して古墳時代後期に至って溝の姿を消す。さて、環濠が二重の溝で巡るのかを含めて形態・規模等は不明であるといわざるをえない。調査地の南約70mに位置する水内坐一元神社遺跡Ⅱからはこの遺構の続きが確認されない。この距離範囲内で屈曲しているものと思われる(102図)。

今回の調査では環濠に関与すると思われる住居址は4軒確認されているが、調査区の西端に位置し全容を検出した遺構はない。それぞれ単独で確認され、主軸方向もほぼ北西に方位を指すという画一性がみられる。C号溝址より東側の遺構面は傾斜をしているとの所見を得ているので、環濠内集落跡の一部とみて間違いないだろう。出土土器も弥生時代後期箱清水式期のもので、5号住居址からは東海系の低脚高坏片が出土しており終末期の様相がうかがえる。しかし、環濠と同様に集落形態や規模等は不明である。水内坐一元神社遺跡Ⅱは環濠外に位置し、弥生時代後期の住居址8軒確認されている。この内5軒は主軸方向が北西にあり、出土土器にも北陸系のものやその影響下の在来系土器が多く確認されている。また、近接する宮西遺跡で当該期の住居址が少なくとも3軒が検出されている。今回調査した地点とこれら調査地の住居址や集落形態に近似したものがあり、同時存在の可能性が高いものとみている。こうしたあり方から環濠・集落・祭祀等の関係は地域共同体による集団祭祀であるのか、環濠内集落と環濠外集落の性格の相違や従属関係の有無等の内容の把握は今後の調査に委ねるところが大い。

当該期の土壘も数多く検出されているが、土壘上からは確認されていない。調査の所見では環濠と住居址域との間に展開しているようである。また、土壘構築間に集中する可能性も高い。また、内蔵する土器も豊富で、17号土壘のように炭化材がみられることから祭祀行為に関与する遺構とみている。

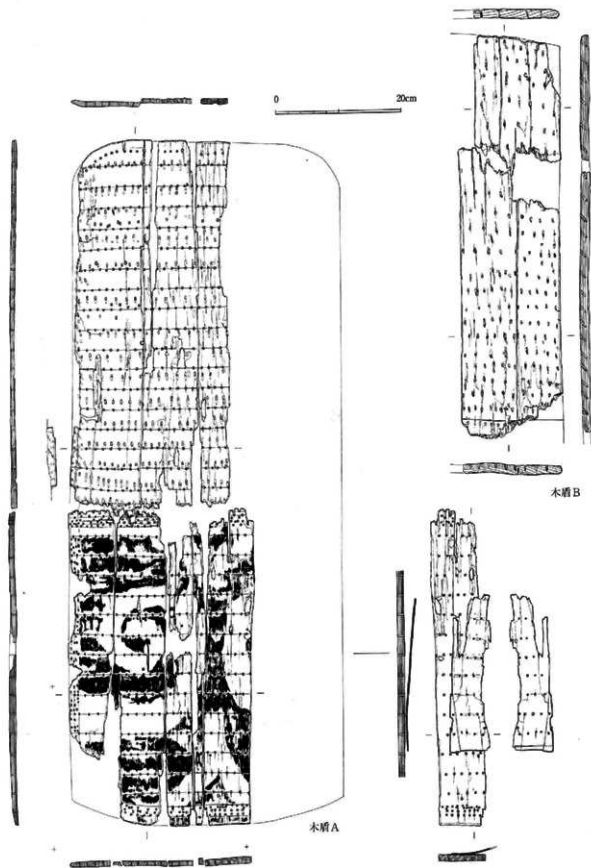
第2節 環濠出土の木盾

鹿児島大学 橋本達也

木盾(103図)は2面出土している。そのうち残存部位の大きい方を木盾A、小さい方を木盾Bとして以下記述する。なお、両盾ともにきわめて脆弱な遺存状態であったため、保存処理を先行し、後に図化・観察を行っている。よって、湾曲のひずみ、接合部の不一致など、本来の形態が変化している部分がある。また各計測値にも若干の歪みによる誤差が含まれている可能性が高い。なお、以下の記述において盾の左右は盾面に向かった状態での方向を示す。

1. 木盾A

形態 左側面は良好に残り、また上下辺も全体の約2/3程度残存しているとみられ、その構造は良好に復元できる。また、幅の推定も可能で全体を復元することが可能である。すなわち、木盾Aは盾全体の右側約1/3を欠失した遺存状態である。輪郭は上辺、下辺ともに角を落として弧を描き、側面は直線的である。上辺は直線部分が長く、弧はやや急で、下辺は弧が長く緩やかになるようである。構造は、上半部と下半部で大きく異なり、それを区画する中間帯がある。上半部の上辺、下半部の側面と下辺に沿って線取りをなす帯状の部位が存在する。ただし上半部と下半部ではその線取り方法は異なっている。全長は108.6~108.8cmである。残存幅は上半部で25.5cm、下半部で29.6cmを測る。木取りや後述する下半部文様の表現から、盾本来の幅は43~46cm程度に復元できる。木取りは板目取りで上下を縦におき、盾表面を木表、盾裏面を木裏とし、心に近い部位を盾中軸になるようにしている。厚みは、現状で上半部は0.7~0.8cm、下半部は0.9~1.1cmである。下に向かって徐々に厚くなっている



103图 木质实测图 (1:6)

ようである。ただし下辺周辺は逆に削り落として薄く仕上げている。端部は上辺では板の木口の角を落とした程度であるが、側辺では1.5cmくらいの幅を最大で2mm程度削り、丸くおさめている。また下辺では端部より2.2cmの幅で最大3mm削り、薄く仕上げている。盾本来のカーブは変形と割れのため、不明確であるが横方向にはやや内湾するようである。また、上下方向では本来の形状が不明であるが、現状で上下端がやや外面側にそる弓反りの状態を呈している。盾面に開けられた孔は基本的に表面からあけられている。孔はおおむね縦長の形状を呈し、多くは直径2~3mm程度である。穿孔孔は一段やや広く彫り下がり、それから真直ぐ開削されている。孔付近の繊維はやや乱れるように見え、鋭利な穿孔具によるものではなさそうである。材質は分析結果によるとヒノキ科ヒノキ属である。

上半部 上半部は上辺から中間帯までの58.0~58.2cmを測る。上辺から1.7~1.9cm下方に辺に沿って1.0~1.2cm間隔で上辺部を縁取る穿孔を行う。とくにこの部分に何らかの付属部品があったとは観察できない。下半部の縁取りとは異なりこの孔に直接、紐を通したとみられる。上半部は全面に2種類の加工がみられる。一つは罫書き線を刻み、その線上に穿孔をするものである。この孔に紐を通して縦割れ防ぎ、また装飾的效果をもたらす弥生時代前期以来の木盾に広くみられる技法である。以下、この孔を紐列孔、横方向の孔列を紐列とする。また紐列は上から第1・第2紐列と数える。罫書き線はきわめて細く、またほとんど深さがなく鋭利な利器によって描かれたとみられる。もう一方の加工は盾表面から斜め下方向に孔を抉り、そこに細い木材部品を差し込むものである。この孔は裏面まで貫通しているものと、貫通していないものがあるが、木盾Bとの比較などからみても、本来は貫通させないものである可能性がある。木盾Aで裏まで抜けているものは意図したのではなく、その薄さのために貫通したか、後の木瘦せによるものであろう。差し込まれている木材部品は良好なものでも盾面からごくわずかにみ出る程度にしか残っていないため、本来の長さやそれ自身への装飾の有無などは不明である。これはとくになかを挟んで留めた痕跡もなく、盾の本質的な構造に関わるものではないので、盾面から上向きに飛び出るトグ状の装飾と見なし得る。また、側辺部では外側斜め上向きに飛び出すように配置されており、さながらハリセンボン状を呈している。以下、これを棘状装飾と呼ぶ。紐列は17列ある。紐列間の間隔は3.0~3.5cmまでであるが3.2cm程度の間隔のものももっとも多い。また、横方向の紐列孔の間隔は部位によって若干異なるが線刻上におおむね1.0~1.5cmで穿たれ、1.2cm程度がもっとも多い。紐列孔は縦方向・横方向ともに削り付けられて配置されている。棘状装飾は断面長5mm前後、幅3mm前後の楕円形状を呈する木材部品を差し込んだものである。その多くが紐列間に横方向1列づつ存在するが、第1~2紐列間、第6~7紐列間には存在しない。また、第8~9紐列間は側辺近くに3本ほど存在するのみでほとんど存在しない。第3~4紐列間の中央部は2段の棘状装飾、また中央部第4紐列直下にも集中部分があり、第3~4紐列中央部付近では集中的な分布をしている。第5紐列より上にある上半部上半の棘状装飾はそれより下位のものより鋭角に刺さっており、部位によって傾きを変えている。側辺に沿ったところでは外側斜め向きに飛び出る縦方向に配列された2列の棘状装飾が存在する。第4紐列上、側辺近くに6孔が横に並び、中央部にも1孔確認できる。また、第6紐列上の側辺より4~5mmの大きめの孔が2孔、4.7cm間隔をあけて並んでいる。また、第8紐列でも残存側辺の5.7cm内側から3ないし4つの穿孔がある。ほかに若干ランダムに穿孔がある。これらがいかなる性格の孔であるかは、ただちには明確にし難い。ただ、構造・装飾に関わる孔の配置とは異質であることからすれば、盾を置いておくときか、持つときかの判断は別として使用に関わる部品を取り付ける孔である可能性は考え得る。

中間帯 上半部と下半部の境に帯状に密な穿孔を行った部分がある。その穿孔間隔が上下左右ともに狭いため、かえって強度を弱めており破損が著しい。また、歪みによる変形もあるが、中間帯の幅はおおむね2.7cmと考えられる。この幅の間に横方向5列ほどの紐列を施している。穿孔間隔は1.0~1.4cm程度が多いが、部分的にはさら

にその間に穿孔したところもあり、また必ずしも正確な直線の配置になっていない部分がある。上半部の第17組列から2.2cm下とさらにその下1.0cmのところに罫書き線が刻まれている。それより下に罫書き線はない。また中間帯の孔をつなぐような黒ずんだライン状の痕跡が観察できる。この穿孔方法は中央部分で下半部の装飾が直線的にとぎれることや下半部の側辺、下辺部縁取りと同様の構造であることから考えて（詳細は後述）、盾面の上に帯状の板を当ててその上から紐を通したものと考えられる。ここでは記述の便宜上、中間帯としたが構造上はむしろ下半部の上縁とできる。

下半部 下半部は長さ47.9cmを測る。きわめて、特徴的な赤色の装飾文様を施す部位であるが、まずはその構造から記す。下半部も横方向の罫書き線を刻み、その線に沿って穿孔を行っている。装飾の塗彩痕跡からみて、横方向の孔間に紐を通していたことが明確にうかがえる。組列は14列あり、その間隔は3.0～3.5cmの範囲におさまるが、3.1cm程度のものが最も多い。横方向の組列孔間隔は1.0～1.5cmであるが、1.2cm程度が最も多い。すなわち、上半部の組列幅・組列孔間隔と同様に割り付けられている。側辺は側辺端に沿って幅1.5cmの、下辺部は下辺端から1.5cm内側から幅1.5cmの帯状部がある。この帯状間には3列の孔がある。ただし、必ずしも整然と並んでいるわけではない。この帯状部に境に赤色塗彩が直線的に途絶えることから、この上には板を当てて縁取りし、その上から塗彩していたものと観察できる。また、組列の罫書き線は縁取り板の下となる帯状部にも及んでおり、縁取り部製作以前に組列の罫書き線を刻んでいる。この帯状の縁取り板は組列で取り付け、盾周辺部を補強し、反りを防ぐものとみられる。第3組列下、側辺から3.5cmの位置とそれからさらに5cmあけたところに穿孔がある。また、第4～5組列間の側辺近くに3孔、第8組列上の側辺から12.1cmの左側渦巻き文中心部下に1孔、第11～12組列間に側辺部から欠損部を挟んで両側に5孔およびその列の中央部付近に1孔がある。これらの孔も上半部にあったものと同等にその用途を明らかにすることはできないが、第3組列下の孔は上半部の第6組列上のものと様相が近く、対応関係にある可能性も考慮できる。他のものは明確にし難いが、やはり側縁に近い位置に、組列・装飾ともに直接関係しない横位の穿孔があることは上半部と同様である。下半部には全体を使い、赤色塗彩によって蕨手状の渦を基調とした装飾文様が施されている。赤色部分と、地色の白木の部分からなる配色である。赤色塗彩は盾表面のみで端部側面に及ばない。また、組列の組部分には着色されていないことから、組列孔に紐を通した後、塗彩を行ったことがうかがえる。残存部位では左巻きの渦巻文が主体を占め、その渦の輪郭をかたどるように上部、下部に対象をなす山形の白色部とその内側に三角形の赤色部がある。また、残存部位の左端付近では向かって右側にある右巻きの渦巻文とみられる部分がある。渦巻文は左右に一对であろうから、この盾は全体幅の中心よりやや右側まで残っていることが確認できる。これは盾全幅を推定する一つの情報となる。赤色塗彩は分析によるとベンガラである。木質は基本的に朱彩を行うものであることや、実物が保存処理後もピンクに近い発色をしている部分が多いことなど、やや異彩を放っている。

付属板 下半部の残存部位のうち、もっとも右側にある板の裏面には厚さ1.8～2.3mmのきわめて薄い板が貼り付けられている。大部分は現状で盾本体から外れているが、一部は接着したまま残っている。残存長は25.0cm、残存幅6.5cmを測るが、欠損しており、本来の大きさは不明である。下側2辺の一部が残り、角は直角に近い。木目は上下に真っ直ぐ通る。現状では歪んでいるため、盾本体と正確には一致しないが本来は本体の孔にあわせた穿孔が行われている。また、盾本体を裏返したときの付属板の表面に紐を通したとみられる痕跡がうかがえ、本体と同時に紐を通したものとみられる。下辺部の角から1cmのところでは盾本体の組列孔を避けたとみられる小さい切りがある。また本体と接着する側となる付属板の裏面には下辺に沿って、5～6mm内側に二本の罫書き線刻がある。この板の位置は盾表面からみれば下半部のほぼ中央部にあたる。よって、木材の心に近く、反りによるもっとも変形や破損のしやすい盾面中央部を補強したものと考えられる。また、使用時の構造に関わる可能性

もあるが、現状では板が貼り付いているという以外の情報を読みとることはできない。

2. 木盾B

形態 大きく5片が残っている。盾面に向かって右側が比較的良く残り、また上辺は一部残存する。下辺および左側は全くないため右上半部の状況のみ確認できる。また、表面の遺存状況が不良でかなり木瘦せし、深い溝が多くできている。側辺は直線的である。上辺もまた直線的であるが、角部に向かってややさがり気味に傾斜し、全体に緩やかな弧を描くようである。現状の破片をつないだ残存全長は64.7cm、幅は最大16.1cmである。残存する盾表面全体に棘状装飾をもつが、詳細は後述する。とくに上辺や側辺に沿った線取りはない。残存部位の下端近くに1本の罫書き線刻があるが、これがいかなる部位にあたるのか判断は難しい。上辺から罫書き線刻までの長さは61.6cmである。木盾Aを参考にするとこの近辺から上半部と下半部の構造が異なった可能性は考慮できる。木取りは板目取りで上下を縦におき、盾表面を木表、盾裏面を木裏として、おそらく心に近い部位を盾中軸になるようにしていると思われる。厚みは1.3~1.5cmあり、あきらかに木盾Aよりも分厚い。端部は板材の角を丸くおさめる程度に削っているが特別な加工はしていない。現状で上下方向のカーブはなく、ほぼ直線的に残存する。左右方向は上辺近くでは直線的ながらやや外反りがあり、残存下半部では内反りになっている。材質は分析されていないが、硬い針葉樹材でモミではないと見られる。

装飾 木盾Bには残存部位の全面に棘状装飾が施されている。それ以外では残存下端部近くに1本の罫書き線刻があるだけで、紐列孔やその他の孔は存在しない。また残存部位は白木である。棘状装飾は盾表面から斜め下向きに孔を挿し、その中に棘状の細い木材部品を差し込んでいる。この孔は表面には貫通しない。棘状装飾は必ずしも直線的ではないが基本的に横方向に列をなして並んでいる。上辺から罫書き線刻までの間には21列存在し、また線下に1列確認できる。おおむね列ごとの間隔は第12列目までの残存上半部が3~4cmと広く、また中心から側辺に向かってさがり気味に弧を描き配されている。第13列より下位の残存下半部の列間隔は2~3cmで2.5cm程度のものが最も多く上半部より狭い。またこの部分の列は比較的直線的に並んでいる。また残存上半部の装飾孔間はおおむね2.0~2.5cm程度であるが、残存下半部の孔間は1.3~1.8cm程度のもが多く上半部より密である。すなわち第12と13列を境に配置を変えており、装飾効果に変化をつけている。なお、第1列は上辺との関係からその間隔は他のものと異なり狭くなっている。ここに1.2cm以上飛び出た棘状部品を差し込んだ場合、棘上部は盾の上辺より上に飛び出ることになる。側辺付近も装飾孔間隔が狭くなっているが、木盾Aのように外側向きにはしていない。棘状の部品はややみ出る程度にしか残っていないため、形状を確かめることはできないが、その残存部からみると、断面長6mm・幅3mm前後のものが差し込まれている。大きいものでは断面長9mm・幅3mmにもなる、平たい部品が入っている。

木盾Aの特徴

弥生時代から古墳時代の木盾の樹種は一般的にモミであり、また赤彩は水銀朱である。それ以外は種であるといつてよいほど盾の素材は限定的である。その限定性は盾の製作・使用に関わる精神的な背景を反映すると考えられ、その意味において木盾は単なる物理的な防衛具としてのみ機能したわけではない可能性が考えられる。この点において、木盾Aがヒノキ材であり、ベンガラによる彩色を行っていることはきわめて特異である。ただし、木盾Aがこれほどまでに良好に遺存したのは保存環境に恵まれたことに加えて、木盾に一般的なモミ材ではなく、ヒノキ材で製作されていたこともあるだろう。また、上半部にみられる棘状装飾は同じく長野市内の石川条里遺跡に類例が存在するが、これは他の地域では確認されていない技法である。この技法は長野善光寺平に特有のものなのか、東日本での木盾の類例が少ないので確定はできないが、現状では弥生時代後期のこの地域でしか見られない技法であり、木盾の研究に地域性の視点が必要であることを示している。一方で、罫書き線刻

み、穿孔し、紐を通す技法は弥生時代前期に現れ、中期以来一般的に存在する紐列式木盾の範疇にあることを示している。この盾自体は弥生～古墳時代木盾の系譜において異質なものである。文様に関してはただちに同一文様の類例をあげられないが、これは木盾Aほど遺存状況の良好な資料が少ないことによるもので、同様の模様を描いたのではないかとみられる木盾破片は若干存在する（奈良県唐古・鏡遺跡第13次、大阪府瓜生堂遺跡、島根県青谷上寺遺跡など）。一般的に弥生時代後期には装飾的な盾が多くなる。木盾Aは特徴的な素材、装飾をもち、地域的様相の検討を必要とする一方で、弥生時代後期の盾に共通する要素を保持しており、その良好な遺存状態からしてもこの時期を最も代表する盾であることは疑い得ない。

木盾Bの特徴

木盾Bは轆状装飾を少なくとも上半部全面に配置することを特徴とする。上述したようにこの技法はきわめて例の少ないものである。また、少なくとも上半部には紐列孔がなく、木盾Bをただちに紐列式木盾として分類することはできない。ただ、その下半部に紐列の存在を想定するか、木盾Aを介することによって木盾Aの粗製品ないし省略形とみなし、紐列式木盾から派生したものと考えることは可能である。弥生時代後期において紐列式木盾以外の木盾の明確な資料が現状では確認できないことからすればきわめて特殊な木盾といえる。たとえ下半部に紐列があっても、上半部の広範囲に紐列を施さない例は弥生時代中期前半までに存在した無紐式木盾以降ほとんどない。あるいはこれがより凝縮された懸念が少なく硬い材とみられることと関係しているかもしれない。木盾Bは形態・端部・技法・厚みなどの点からみて、木盾Aよりも粗雑なつくりである。しかし、基本的には轆状装飾からみて密接な関係をもつもので、その粗製品である可能性が高いとみる。ともかくこの盾も木盾Aとともに、弥生時代後期において、これまでほとんど確認されていない技法を用いたものであり、盾の時期・地域を検討する重要な資料である。

水内坐一元神社遺跡出土木盾の意義

水内坐一元神社遺跡出土の木盾、とくに木盾Aはきわめて良好な資料である。これまで弥生時代の盾は全国各地から出土しているが、全形が復元できるほど良好な資料は大阪府東大阪市鬼虎川遺跡出土のうちのもっとも遺存状況の良い1例以来である。確実な資料情報に基づいて全形復元模型（140頁下段写真）まで製作されたのは、これに次いで2例目である。これまで、弥生時代の木盾で全形復元されたものが鬼虎川盾のみであったことから、弥生盾＝鬼虎川盾のイメージがかなり強いと思われる。しかし、鬼虎川盾は弥生時代中期前半の近畿の盾は代表しても、それが弥生時代を代表する盾とはできないものである。無紐式木盾に分類できるこの盾は、現状では弥生時代前期末～中期前半の近畿でのみ確認される盾である。弥生時代から古墳時代までの一般的な盾はこれと異なる紐列式木盾である。これらの意味において水内坐一元神社遺跡例において初めて、弥生時代の紐列式木盾の全形が復元されたことはきわめて重要である。しかし、弥生時代後期の善光寺平に存在した水内坐一元神社盾も轆状装飾などはかではみられない独自の属性を有しており、これも弥生時代の全般に一般的な盾とはできない。しかしむしろ今後、この盾の系譜的な脈絡などの検討を要するという点を念頭に置いた上で積極的に評価することは、新たな研究の方向性を提供したという大きな意味をもっている。また、盾の技法のみならず弥生時代の文様の系譜やその背景にある世界まで検討する素材を提供し、今後の研究においてこの盾から引き出される可能性ははかり知れないと考える。

[参考文献]

- 橋本達也 1999「盾の系譜」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室
(財)長野県埋蔵文化財センター 1997「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15 石川条里遺跡」
(財)東大阪市文化財協会 1987「鬼虎川の木質遺物―第7次発掘調査報告書 第4冊―」

第3節 木盾Aの樹種鑑定

御吉田生物研究所 汐見 真
京都造形芸術大学 岡田 文男

樹種 ヒノキ科ヒノキ属 (Chamaecyparis sp.)

木口では仮導管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹種細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。

以上の検鏡結果から、木材はヒノキ科ヒノキ属と考えられる。

使用顕微鏡 Nikon MICROFLEX UFX-DX Type 115

第4節 木盾Aの赤色塗彩部分の観察結果

京都造形芸術大学 岡田 文男

盾の赤彩部分について、塗装断面の顕微鏡観察を行い、塗装技法を調査したので結果を報告する。

調査方法 赤色に彩色された部分から約2mm角の剥落試料を採取し、資料をエポキシ樹脂に包埋し、研磨して薄片に仕上げ、透過光による観察を行った（現段階ではその他の機器分析は行っていない）。

結果 写真1（透過光、100倍） 木材組織の板目部分が観察され、赤色顔料が仮導管に1層分浸透し、木材表面にもわずかに付着しているのが認められる。膠着剤はわずかに黄褐色を呈している。写真2（透過光、500倍） 写真1をさらに拡大し、赤色顔料の粒子を観察したもので、パイプ状のベンガラ粒子がわずかに認められた。膠着剤は黄褐色を呈している。

以上の観察から、赤色顔料は形状からパイプ状ベンガラ、膠着剤は漆と推察された。

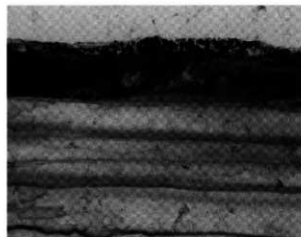


写真1

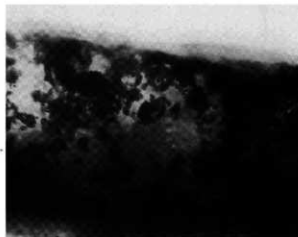


写真2

土器観察表

番号	種	径長 (cm)	口径	底径	器高	底径	粘土	底 部・調 整・文 様		備 考
								外 部	内 面	
2号修復址										
1	壺	36.8			170			複合口縁(粘土帯貼り付け) 文様: B 2		横溝磨き
2	台付壺	12.2	8.7	14.3	45			文様: I C 胴下半: 横溝磨き 胴部: ハケ→横溝磨き		胴部: 横溝磨き 胴部: ナデ
3	台付?	7.6	8.1		定			ハケ→ナデ (専託詳細不明)		ナデ
4	蓋				定			胴部: 内面磨き 底部: ナデ		ナデ
3号住居址										
5	壺	11.2	4.4	12.0	15			文様: B 2 (底文単位毎に底文順序異なる) 胴下半: 横溝磨き 底部: 磨削り		横溝磨き
6	壺	13.5			定			文様: I B 胴状文の止め数は不明		横溝磨き
5号住居址										
7	壺	18.9			34			磨削り・赤彩		口縁: 磨削り・赤彩 胴部: ナデ
8	壺	23.0			34			ハケ→横溝磨き		横溝磨き・赤彩
9	壺				45			口縁: 横溝磨き・赤彩 胴部: 磨削り文字 (2本) 胴部: 横→内面磨き		横溝磨き・赤彩
10	壺				14			二重口縁 ハケ→磨削り・赤彩		口縁: 磨削り・赤彩 胴部: ハケ
11	壺	11.8			定			ハケ→横溝磨き		横溝磨き・赤彩
12	壺	6.5			15			胴部: 横溝磨き 底部: 磨削り		胴部: 部分的に横溝磨き ハケ
13	壺				15			文様: I B, C (底文単位毎に底文順序異なる) 等間隔止の横状文 胴下半: 横溝磨き		横溝磨き
14	壺	18.0			25			文様: I B 右回り等間隔止の横状文 ハケ		磨削り(胴部は磨き以前に磨削りの可能性有り)
15	壺	4.8			25			胴部: 横状文 胴下半: 横溝磨き 底部: 磨削り		横溝磨き
16	台付壺	8.2			15			縦ハコ (専託詳細不明)		ハケ→ナデ
17	台付壺	9.3			34			ハケ→ナデ		胴部: 専託不明 胴部: ナデ
18	杯	13.8	4.8	5.4	定			口縁部: 山形突起 4 体部: 磨削り・赤彩 底部: 磨削り		横溝磨き・赤彩
19	穿孔鉢	22.5	6.2	11.8	20			口縁→体部上半: 磨削り→横溝磨き 体部下半: 磨削り 底部: 磨削り		横溝磨き (専託詳細不明)
20	高杯	26.3			16			横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩
21	高杯				170			直線文・山形文→直線文→羽状刺突文→直線文 (厚縁はハケもしくは貝殻敷)		ナデ
1号土壺										
22	杯	15.0		5.4	20			口縁: 横状文 底部: 磨削り→磨削り		口縁: ハケ→磨削り 底部: 放射状磨削り
2号土壺										
23	壺	26.8	9.7	20				胴部: ナデ・赤彩 体部: 磨削り・赤彩		胴部: ナデ・赤彩 体部: 磨削り・赤彩
24	壺	25.2	8.1	定				胴部: ナデ・赤彩 体部: ハケ→磨削り・赤彩		胴部: ナデ・赤彩 体部: 磨削り・赤彩 口縁付面に横溝磨き
25	壺	19.5	8.9	34				ハケ→横溝磨き 胴部に焼成前穿孔1		ハケ→横溝磨き
26	台付壺		10.2		20			ハケ→横溝磨き 胴部: 磨削り 外面赤彩の可能性有り (専託不明)		胴部: 磨削り 胴部: 磨削り→ナデ
27	高杯	29.6			定			磨削り・赤彩 胴部との接合は円板状		磨削り・赤彩
3号土壺										
28	壺	16.8			170			横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩
29	壺	13.1	4.5	定				胴部: ナデ 体部: 磨削り 胴部に焼成前穿孔1		横溝磨き
30	壺	32.4			45			口縁: 山形突起 口縁部: ハケ→横溝磨き・赤彩 胴部: 磨削り文字 (2本) →右回り等間隔止の横状文 胴部: ハケ→磨削り・赤彩		口縁部: 磨削り・赤彩 胴部: 磨削り
12号土壺										
31	壺	14.5			14			文様: I A 胴部は直線文		横溝磨き
32	台付壺	8.0			定			横溝磨き 胴部との接合は円板状		胴部: 磨削り 胴部: ハケ
33	台付壺	6.6			20			文様: I E 胴部は直線文 胴部: 横溝磨き		胴部: 磨削り 胴部: ナデ
14号土壺										
34	壺	31.8			34			口縁部: 横溝磨き・赤彩 胴部: 右回り2連止の横状文→磨削り文字 (2本)		口縁部: 磨削り・赤彩 胴部: ナデ
35	壺	16.0			34			口縁部部: 面取り→横溝磨き 口縁部: 横溝磨き		横溝磨き
36	杯	14.4			15			横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩
37	台付壺	9.6			34			胴部: ハケ→横溝磨き 胴部: 縦ハコ→横溝磨き		胴部: 磨削り 胴部: ナデ
38	壺	11.0			15			胴部: 横溝磨き・赤彩 胴下半: 横→磨削り 底部: 磨削り		ハケ→ナデ (専託詳細不明)
16号土壺										
39	壺	11.0			15			横溝磨き		磨削り→灰色肌
40	壺	14.0			16			ハケ→横ナデ		ハケ→ナデ
41	壺	20.4			18			口縁部: ハケ→横ナデ 胴部: ハケ		口縁部: ハケ→ナデ 胴部: ナデ
17号土壺										
42	壺	17.8			定			口縁部部: つまみ上げ状の横溝ナデ面取り 口縁部: 横溝磨き 胴部: 横溝磨き		口縁部: 横溝磨き 胴部: 磨削り→ナデ
43	壺	14.2	5.1	18.7	定			口縁部: ハケ→横溝磨き・赤彩 胴部: ハケ→磨削り・赤彩 底部: 磨削り		口縁部: ハケ→磨削り・赤彩 胴部: ナデ 底部: 磨削り
44	壺	15.1			定			口縁部: 横溝磨き・赤彩 2個一対の頸孔 胴部: 磨削り・赤彩		横溝磨き
45	無蓋壺	8.6	4.2	8.6	45			口縁部: 2個一対の頸孔 横溝磨き・赤彩 底部: 磨削り		横溝磨き
46	壺	17.4	6.7	23.2	定			文様: I B 胴部は右回り2連止の 口縁部部: 縦ハコナデによる面取り 胴下半: 横溝磨き 底部: 磨削り		口縁部: 横溝磨き 胴部: 磨削り→磨削り 胴部: 磨削り

番号	部 種	法量 (mm)		通 高	軸 土	成 形・調 整・文 様		備 考
		口径	法柱			内 面	外 面	
47	台付壁	15.4		定		文様: I A 胴部はやや展開を右回り等四隅止の 割下半; 縦走りき (準詳細不明)	口縁部: 横走りき 胴部: ハケ→縦走り	
48	台付壁	13.2		定		文様: I A 胴部: 右回り3~4連止の縦状文 割下半; 縦走りき	縦走りき	
49	壁	4.0		1/2		文様: I B 胴部: 右回り2連止の縦状文 割下半; ハケ→縦走り 底部: 彫削り	横走りき (胴部は走りき以前に彫削りの可能性あり)	
50	高坪	24.6		定		横走りき・赤彩	横走りき・赤彩	
18号土壌								
51	窓	5.8		定		口縁部: 縦走りき 胴部: 彫削り 底部: 彫削り	口縁部: 横走りき 胴部: ハケ→縦走り	
52	窓	17.8		1/4		口縁部: 彫削り 口縁部: 縦ハケ	横ハケ	
53	台付壁	13.8		1/8	○	口縁部: ハケ状工具による押し引きの衝突 胴部: 新ハケ→横ハケ	口縁部: 内面彫削り 胴部: 横削り: ナデ	
54	坪	14.0	4.1	6.3	1/6	彫削り・赤彩 底部: 彫削り	彫削り・赤彩	
55	窓	5.2		定		ハケ→ナデ	彫削り	
56	器台			4/5		彫削り・赤彩 円形透孔3	受部: 彫削り赤彩 胴部: ナデ	
57	高坪			3/4		彫削りき 円形透孔3	ナデ	
58	器台	7.4	11.2	7.9	4/5	口縁・受部: 横走りき 胴部: 縦走りき円形透孔3	受部: 横走りき 胴部: ハケ→ナデ	
23号土壌								
59	窓	12.9		定		彫削り・赤彩	口縁部: 彫削り・赤彩 胴部: ナデ	
60	窓			1/3		彫削り・赤彩	ハケ→ナデ	
61	台付壁	8.4		1/3	○	胴部: 粘土層付突等 彫削り・赤彩 胴部: 彫削り・赤彩	口縁部: ナデ 胴部: ナデ	
62	鉢	12.6		1/8		口縁部: 横走りき・赤彩 胴部: 彫削り・赤彩	口縁部: 横走りき・赤彩 胴部: 彫削り	
63	穿孔鉢	20.8	4.9	9.9	定	彫削り 底部: 成成穿孔1	横走りき	
64	坪	4.8		2/3		彫削り: 彫削り・赤彩 底部: ナデ	彫削り	
28号土壌								
65	壺	16.8		1/3		口縁部: 横走りき 胴部: 横走りき	口縁部: 横走りき 胴部: 彫削り	
66	鉢	16.8		1/8		彫削り	横走りき	
67	坪	14.9		1/4		口縁: 横走りき 底部: 彫削り→彫削り	口縁: 横走りき 底部: ハケ→彫削り	
68	鉢	14.8		1/4		彫削り?	口縁部: 面取り 底部: 彫削り?	
29号土壌								
69	台付壁	12.4		1/4	○	口縁: ハケ状突 胴部: 凹状ハケ→横ハケ	口縁部: 面取り 胴部: 横ハケ 胴部: 彫削り	
30号土壌								
70	壺	16.3		1/2		口縁: 横ナデ 胴部: ハケ→ナデ	口縁: 横ナデ 胴部: 彫削り	
71				定		横走りき (準詳細不明)	横ナデ	
72	杯	12.4	5.0	1/2		口縁: 横走りき 底部: ハケ→彫削り	口縁: 横走りき 底部: ハケ→彫削り	
73	杯	20.2		6.8	1/2	彫削り	彫削り→黒色処理	
74	高坪	16.2	13.8	12.2	定	杯部: 横走りき 胴部: 彫削り	杯部: 彫削り 胴部: 彫削り	
75	瓶	22.6	10.5	29.2	1/2	口縁: 横ナデ 胴部: 横→斜の彫削り	口縁: 横ナデ 胴部: 彫削り	
31号土壌								
76	壺	15.5		1/6		文様: I E	ハケ→彫削り	
33号土壌								
77	台付壁	8.2		1/2		文様: I A 割下半部→胴部: 横走りき	割上半部: 彫削り・赤彩 割下半部: ハケ→彫削り 胴部: ナデ	
1・A号遺址第5層								
78	窓	8.0		3/4		口縁: 横走りき・赤彩 胴部: 右回り2連止の縦状文→横状文(2本) 割上半部: 横走りき・赤彩 割下半部: 横走りき 底部: ナデ	口縁: 横走りき・赤彩 割上半部: ハケ 割下半部: 詳細不明	I区R20
79	窓			1/6		口縁: 横走りき 胴部: 横状文(2本) 胴部: 横走りき	口縁: 横走りき 胴部: ナデ	B区
80	窓	20		2/3		口縁: ハケ→横走りき・赤彩 胴部: 成成縦線文	口縁: 彫削り・赤彩 胴部: ナデ	B区R27
81	窓	14.2		1/2		口縁: ナデ 胴部: 横状文(1本) 胴部: 横走りき	口縁: 彫削り 胴部: 彫削り不明	B区 R24
82	窓			2/3		口縁: 横走りき・赤彩 胴部: 表面文・1/2円弧文 胴部: 横走りき・赤彩	口縁: 彫削り・赤彩 胴部: 彫削り	B区
83	窓	14.3	7.2	26.7	3/4	口縁: 横走りき 胴部: 右回り等四隅止の縦状文2段 胴部: 彫削り→ナデ	口縁: 横走りき 胴部: 彫削り→ナデ	B区R24
84	土口窓			1/2		彫削り・赤彩	彫削り	B区
85	土口窓	16.2		1/4		口縁: 彫削り・赤彩 胴部: 成成文O+横状文	ハケ→彫削り・赤彩	B区
86	土口窓	14.4		1/3		ハケ→彫削り・赤彩 口縁: 2個+1の穿孔	ハケ→彫削り・赤彩	B区
87	窓	12.5	5.1	21.9	1/2	○ 口縁: 横ナデ 胴上部: 新ハケ 割下部: 彫削り 底部: 彫削り	口縁: 横ナデ 胴上部: 彫削り→ナデ 割下部: 彫削り	I区R20
88	窓	17.3		1/10		横走りき・赤彩	横走りき・赤彩	B区
89	窓	7.4		1/2		横走りき	ハケ→ナデ	I区R21
90	壺	20.6		4/5		文様: II B・C (論文単位海に論文項異なる) 口縁部: 面取り→横状文 胴部: 右回り3連止の 割下半; 彫削り	口縁: 横走りき 胴部: 彫削り 胴部: 彫削り→彫削り	I区
91	壺	10.2		1/4		文様: I A 胴部: 右回り等四隅止の縦状文	口縁: 横走りき 胴部: ナデ	I区
92	壺	23.3	10.7	34.1	1/3	文様: I A・B (胴部は論文単位海に論文項異なる) 口縁部: つまみ上げ状の横ナデ面取り→横状文 割下半部: ハケ→彫削り→ナデ 底部: 彫削り→ナデ	口縁: 彫削り→彫削り 胴部: 彫削り→彫削り	I区R20・R21
93	壺	22.2		1/3		文様: I A 口縁部: つまみ上げ状の横ナデ面取り 胴部: 右回り3連止の縦状文 割下半部: 横走りき	口縁: 彫削り→彫削り 胴部: 彫削り→彫削り	I区
94	壺	6.4		1/3		割下半部: 横走りき 底部: 彫削り→ナデ	横走りき	I区
95	壺	28.5		1/8		横走りき文上→底	横走りき	I区R21

番号	種別	法線 (cm)		構造	土質	成 形・調 整・文 様				備 考
		口径	径径			外 面		内 面		
						形 状	文 様			
96	変	22.0		1/6		文様: IV B 口縁縁部: 面取り→横溝磨き		横溝磨き		V区
97	変	22.2		1/6		文様: I B 口縁縁部: 複合口縁(横土帯貼付)→横溝磨き		横溝磨き		V区
98	変	15.4		3/8		口縁: 横溝磨き 胴部: ハケ 胴部: ハケ→横溝磨き		口縁: ハケ→横溝磨き 胴部: 幾手ナ		V区R27
99	変	22.1		1/6		文様: I B 胴部: 右回り等間隔止の櫛状文 口縁縁部: 面取り		口縁: 横溝磨き 胴部: 幾手ナ 幾手ナ→横溝磨き		V区
100	変	18.2		1/4		口縁: 流状文上→下 胴部: 右回り等間隔止の櫛状文 口縁縁部: 面取り→横溝磨き		横溝磨き		I区
101	変	15.5		1/5		口縁縁部: 面取り→流状文 口縁: 流状文上→下		横溝磨き		II区
102	変	13.3	4.8	13.2	完	口縁縁部: 面取り→流状文 文様: I A 胴下部: 横溝磨き 底部: ナデ		口縁: 横溝磨き 胴部: 幾手ナ→横溝磨き 胴部: 横溝磨き		首区R26
103	変	12.2	4.6	12.9	4/5	口縁縁部: 幾手ナ面取り 文様: I A 胴部: 右回り3溝止の櫛状文 胴下部: 横溝磨き 底部: ナデ		口縁: 幾手ナ 胴部: 幾手ナ→ナデ		V区
104	変	10.8	4.4	10.7	完	口縁縁部: 面取り 文様: I A 胴部: 縁縁真縁文 胴下部: 横溝磨き 底部: 幾手ナ→ナデ		口縁: 胴部: 横溝磨き 胴部: 横溝磨き		V区R25
105	右付蓋	11.7		完		文様: I A 胴部: 右回り4溝止の櫛状文 胴下部ハケ→横溝磨き		横溝磨き		V区R25
106	変	8.4		2/3		胴部: 流状文上→下 胴下部: 横溝磨き 底部縁部: 横溝磨き 幾手ナ→ナデ		横溝磨き		I区R21
107	変	18.5		1/2	○	口縁: 横ナデ 胴部: ハケの可能性有り		口縁: 横ナデ 胴部: ハケ 胴部: 幾手ナ		I区
108	変	14.7		1/20	○	口縁: 横ナデ 胴部: ハケ→横溝磨き		口縁: 横溝磨き 胴部: 幾手ナ→ナデ		III区
109	変	15.2		1/20	○	口縁: 横ナデ 胴部: ハケ		幾手ナ		II区
110	変	18.6		1/20	○	口縁縁部: ナデ→面取り 口縁: 横ナデ 胴部: ハケ		口縁: 横ナデ 胴部: ハケ		II区
111	台付蓋	14.4	8.6	22.8	2/3	口縁縁部: 面取り無し 口縁: 横ナデ 胴部: 切羽ハケ 胴部: 胴ハケ→ナデ		口縁: 横ナデ 胴部: 幾手ナ→ナデ 胴部: ナデ 胴部縁の磨り返し無し		II区
112	蓋	18.9		5.7	完	縁部: ナデ 体部: 横溝磨き 胴部に縁面穿孔孔		横溝磨き		I区
113	穿孔鉢	17.8	4.4	10.1	完	口縁: 横ナデ→横溝磨き 胴部: ハケ→横溝磨き 底部: 縁面穿孔孔 1箇所		ハケ→横溝磨き		I区
114	右口鉢	15.6	7.0	17.5	2/3	注口: I ハケ→横溝磨き 底部: 横溝磨き		ハケ→横溝磨き		I区R28
115	坪	14.0	5.9	5.5	1/3	横溝磨き・赤彩 底部: 幾手ナ→横溝磨き		横溝磨き・赤彩		III区
116	台付鉢			1/3		胴部: 右回り等間隔止の櫛状文 胴部: ハケ→横溝磨き		横溝磨き		II区R21
117	高坪	22.7		1/2		横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩		III区
118	高坪	24.0		1/8		横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩		III区
119	高坪	24.6		1/8		横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩		IV区
120	高坪	16.5		1/2		口縁縁部: 山形突縁 横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩		I区
121	高坪	16.4		1/8		横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩		I区
122	高坪	9.5	7.3	11.6	3/4	坪部: 横溝磨き・赤彩 脚部: 横溝磨き・赤彩		坪部: 横溝磨き・赤彩 脚部: ハケ→ナデ		V区
123	高坪		10.9	1/4		横溝磨き・赤彩 三角形穿孔: 上下二段 千鳥状に各4個配列		幾手ナ		IV区
124	高坪	4.8		1/4		縁縁部内周 横溝磨き・赤彩		幾手ナ→ナデ		IV区
125	右口鉢	15.4		1/3		注口: I 口縁: 流状文 体部: ハケ→横溝磨き・赤彩		ハケ→横溝磨き・赤彩		IV区
126	高坪	16.2	9.8	12.6	2/3	口縁縁部: 面取り→横溝磨き・赤彩 坪部: 脚部: 横溝磨き・赤彩 脚部: 縁縁部: 横溝磨き・赤彩 円縁光輪		坪部: 横溝磨き・赤彩 脚部: ハケ→ナデ		V区
127	高坪		12.0	1/3		横溝磨き・赤彩		坪部: 横溝磨き・赤彩 脚部: ハケ→ナデ		V区
128	高坪	23.3		1/2		横溝磨き・赤彩		横溝磨き・赤彩		V区R27
129	高坪	10.5	7.5	7.1	3/4	口縁縁部: 面取り 口縁: 横ナデ 坪部: 横溝磨き 脚部: 横溝磨き		坪部: 横溝磨き 脚部: ナデ		I区
1・A号遺物第4期										
130	変	21.1	5.8	20.9	1/2	口縁縁部: 白粉突縁 口縁: ハケ→横溝磨き 胴部: 磨滅了字文(2本)→右回り等間隔止の櫛状文 胴部: ハケ→横溝磨き 底部: 幾手ナ		口縁: ハケ→横溝磨き 胴上部: 幾手ナ→ナデ 胴下部: ハケ		I区
131	変			3/5		口縁: 横溝磨き・赤彩 胴部: 磨滅了字文(2本)		横溝磨き・赤彩		IV区
132	変	17.4	6.1	27.3	4/5	口縁: 横溝磨き 胴上部: 斜溝磨き 胴下部: 幾手ナ→ナデ 底部縁部: 横溝磨き 底部: 幾手ナ		口縁: 横溝磨き 胴部: 幾手ナ→ナデ		V区R18
133	変	7.7	4.0	15.3	4/5	口縁: 横溝磨き・赤彩 胴部: 横溝磨き・赤彩 底部: 幾手ナ→横溝磨き		口縁: 横溝磨き・赤彩 胴部: ナデ		III区R13
134	変	14.6	7.4	27.4	完	口縁: ハケ→横ナデ 胴部: 流状文 I ハケ→横溝磨き 底部: 幾手ナ		口縁: 横ナデ 胴部: 幾手ナ→ナデ		II区
135	変	20.7		1/2		横溝磨き		横溝磨き		V区R19
136	変	12.3		1/2		横ナデ		横溝磨き		III区
137	変	9.5	1.6	1/4		口縁縁部: 面取り 横溝磨き・赤彩		横溝磨き		II区R5
138	変	16.8		5.6	完	口縁縁部: 2割一対の裝飾孔 横溝磨き・赤彩		横溝磨き		I区R15
139	変	12.0		1/2		横溝磨き・赤彩 胴部: 2割一対の裝飾孔		口縁: 横溝磨き・赤彩 胴部: 幾手ナ		V区R18
140	変	11.3		3/3		口縁: 横ナデ→ナデ 胴上部: 胴ハケ 胴下部: 幾手ナ→ハケ		口縁: ハケ→横ナデ 胴部: 幾手ナ		V区
141	変			1/4		横溝磨き・赤彩		幾手ナ→ナデ		II区
142	変		8.7	1/3		ハケ→横溝磨き 底部: 横溝磨き		ハケ		V区
143	変	27.8		1/6		口縁縁部: 面取り→流状文 口縁: 流状文上→下 胴部: 右回り等間隔止の櫛状文		ハケ→横溝磨き		I区
144	変	21.0		1/8		口縁: 流状文上→下		口縁: 横溝磨き 胴部: ハケ		II区
145	変	22.8	7.0	31.2	1/2	口縁縁部: つまみ上げ状の横ナデ面取り 文様: I B 胴部: 右回り3溝止の櫛状文 胴下部: ハケ→横溝磨き 底部: 幾手ナ		口縁: 横溝磨き 胴部: 幾手ナ 胴部: 横溝磨き		I区R17
146	変	30.2	6.7	20.0	3/4	口縁: 横ナデ 胴部: 幾手ナ→ナデ 底部: 幾手ナ		口縁: 横ナデ 胴部: 幾手ナ→ナデ		I区R14
147	右付蓋		8.9	2/3		幾手ナ→ナデ		胴部: ナデ 脚部: 幾手ナ		III区
148	変	21.3		1/8		口縁: 流状文 胴部: 流状文		横溝磨き		II区
149	変	21.8		1/10		文様: II 口縁: 流状文上→下 胴部: 流状文O点縁文		横溝磨き		V区

番号	種別	法量 (m)			遺存状況	築	成 形・調 整・文 様			備 考
		口徑	直径	高さ			外 面		内 面	
150	堊	20.1			146	口縁部部;面取り 口縁:流状文上→下		底面:内・外・底面	V区	
151	堊	22.0			148	文様:II 口縁:流状文上→下 胎部:流状文or素焼文		口縁:横流磨き	Ⅱ区	
152	堊	14.0			146	口縁部部;つまみ上げ状の横ナテ面取り 文様:IA 胎部:右回り4道止の流状文		口縁:横流磨き	Ⅰ区	
153	堊	18.8			146	口縁部部内面 胎部:流線文 胎部:流状文 口縁:ハケ→ナテ		横流磨き	Ⅱ区	
154	堊	20.4			205	口縁部部内面 文様:Ⅰ 流状文胎部部不定 胎部部:ハケ		口縁:横流磨き 胎部:流磨り 胎部:流磨り	Ⅰ区	
155	堊	16.5			25	口縁:流線文 胎部:ハケ→ナテ		口縁:流磨り→横ナテ 胎部:流磨り→ナテ	V区	
156	堊		6.9		10	ハケ→縦流磨き 胎部:流磨り→流磨り		横流磨き	Ⅰ区	
157	堊	10.5			10	文様:Ⅱ 流状文胎部部不定 胎部:右回り3道止の流状文 胎部:ハケ→ナテ		流磨り→流磨り	V区	
158	台付	10.0			10	文様:ⅠA 胎部:右回り流状文 胎部部:摩耗不明		ナテ	Ⅰ区	
159	堊	8.6	4.4	20.6	完	口縁:横ナテ 胎部:ハケ		口縁:横ナテ 胎部:ハケ	Ⅱ区	
160	堊	10.7	5.8	13.5	完	口縁:横ナテ 胎部:ハケ→ナテ 胎部部:流磨り 胎部:ナテ		口縁:横ナテ 胎部:ナテ	Ⅱ区	
161	堊	9.0	4.0	11.1	10	口縁:ハケ→ナテ 胎部:流磨り→ナテ		ナテ	Ⅲ区	
162	堊	19.8			14	口縁:横ナテ 胎部:ハケ		口縁:横ナテ	Ⅲ区	
163	堊	17.4			10	ナテ		ナテ	Ⅱ区	
164	台付	18.4	9.4	26.6	34	口縁:横ハケ→横ナテ 胎部:斜ハケ 胎部:縦ハケ		口縁:横ハケ 胎部:横ナテ 胎部:横ナテ→ナテ	V区R18	
165	台付	13.4	8.2	18.6	完	口縁:横ナテ 胎部:斜→縦ハケ 胎部:ナテ		口縁:横ハケ 胎部:流磨り・ハケ 胎部:ハケ→ナテ	Ⅱ区R19	
166	台付	15.3	8.5	19.1	完	口縁部部;面取り 口縁:横ナテ 胎部:割造部不明 胎部:ナテ		口縁:横ナテ 胎部:流磨り 胎部:ナテ	V区R16	
167	堊	12.2	4.0	11.9	9	口縁:横ナテ 胎部:流磨り 胎部:流磨り→ナテ		口縁:横流磨き 胎部:流磨り	Ⅲ区	
168	堊	11.3	5.3	14.0	10	口縁:横ナテ 胎部:流磨り→ナテ 胎部部:流磨り		口縁:横ナテ 胎部:流磨り→ナテ	Ⅰ区	
169	堊	11.2			20	口縁:横ナテ 胎部:ナテ		口縁:横ナテ 胎部:流磨り→ナテ	Ⅲ区	
170	堊	17.0			10	口縁:横ナテ 胎部:ハケ→ナテ		ナテ	V区	
171	堊	12.0			10	口縁:横ナテ 胎部:ナテ 口縁部部内面;面取り		口縁:横ナテ 胎部:ナテ	Ⅰ区	
172	年	13.0	5.1	6.3	10	口縁:2割・1割の流線文 胎部:流磨り・赤彩 胎部:流磨り・赤彩		流磨り・赤彩	V区	
173	年	12.1	3.6	15.8	完	胎部:流磨り・赤彩 胎部部部:流磨り 胎部部:流磨り		流磨り・赤彩	Ⅰ区	
174	高坏	23.6			18	口縁部部;山形突起 胎部:流磨り・赤彩		流磨り・赤彩	Ⅲ区	
175	高坏	23.5			10	流磨り・赤彩		流磨り・赤彩	Ⅲ区	
176	高坏	15.2			10	流磨り・赤彩		流磨り・赤彩	V区	
177	高坏	17.5	13.1	14.4	20	胎部:流磨り・赤彩 胎部部:流磨り・赤彩 三角形透孔4		胎部:流磨り・赤彩 胎部部:ナテ	V区	
178	高坏	19.6			18	流磨り・赤彩		流磨り・赤彩	Ⅲ区	
179	高坏	18.0			20	口縁部部内面;山形文・流線文や流線文で区画 胎部はハケもしくは具流線		口縁部部内面;面取り 胎部:流磨り	Ⅱ区	
180	高坏	20.3	13.3	14.7	45	胎部:ハケ→流磨り 胎部部:ハケ→縦流磨き 内形透孔上・下二段各3個		口縁部部内面;面取り 胎部:流磨り 胎部部:ナテ	Ⅱ区	
181	高坏				10	流磨り・赤彩		流磨り・赤彩	V区	
182	高坏	14.3			24	胎部:流磨り・赤彩 胎部部:流磨り・赤彩 円形透孔3		胎部:流磨り・赤彩 胎部部:ナテ	Ⅰ区	
183	高坏	13.0			完	ハケ→流磨り・赤彩 円形透孔4		流磨り・ハケ	Ⅲ区	
184	高坏	14.4			完	流磨り・赤彩 3個・1個の円形透孔4個		胎部:流磨り・赤彩 胎部部:ナテ	Ⅲ区	
185	高坏	12.0			完	縦流磨き 円形透孔上・下二段各3個		流磨り→ナテ	Ⅰ区	
186	高坏	10.8			10	流磨り・赤彩 円形透孔5		胎部:流磨り・赤彩 胎部部:流磨り	V区	
187	高坏				18	粘土帶輪台交等→横流磨き・赤彩		ハケ→ナテ	V区	
1・A号薄胎部3層										
188	堊				40	胎部:右回り等間止の流状文→流状文 胎部:ハケ→縦流磨き		ハケ		
189	堊	36.0			14	口縁部部;山形突起4 口縁:縦流磨き・赤彩		流磨り・赤彩	Ⅱ区	
190	広口	16.0			14	口縁部部;面取り→流磨り 口縁:縦流磨き		横流磨き	Ⅲ区	
191	堊	15.5			14	横流磨き		横流磨き	Ⅲ区	
192	堊	20.0	7.3	33.2	34	口縁部部;面取り・ナテ 口縁部:横ナテ 胎部部:ハケ→流磨り 胎部部:ハケ→流磨り		口縁:横流磨き 胎部:流磨り・ハケ→流磨り	Ⅱ区	
193	堊	15.0			10	口縁部部;面取り・ナテ 口縁:縦流磨き 胎部部:斜→縦流磨き		口縁:縦流磨き 胎部部:ハケ		
194	広口	13.7	3.3	13.4	20	口縁:ハケ→横ナテ 胎部部:ハケ→ナテ 胎部部:流磨り→ナテ		口縁:横ナテ 胎部部:流磨り 胎部部:ナテ	Ⅲ区	
195	堊	4.4			34	胎部:ハケ→ナテ 胎部部:流磨り→ナテ		流磨り→ナテ	Ⅲ区	
196	埴	12.6		14.3	34	口縁:流磨り 胎部部:流磨り 胎部部:流磨り→流磨り		口縁:縦流磨き 胎部部:ナテ 胎部部:流磨りやナテ	Ⅱ区	
197	小埴	8.8		8.0	完	口縁:横ナテ 胎部部:ナテ 胎部部:流磨り→ナテ		口縁:ナテ 胎部部:ナテ	Ⅰ区	
198	小埴	7.2		8.6	45	口縁:横ナテ 胎部部:ハケ→ナテ		口縁:横ナテ 胎部部:ナテ 胎部部:流磨りやナテ	Ⅰ区	
199	小埴				10	口縁:横ナテ 胎部部:ハケ→ナテ		口縁:横ナテ 胎部部:流磨りやナテ	Ⅰ区	
200	小埴	8.0		9.8	20	口縁:横ナテ 胎部部:ナテ 胎部部:流磨り		口縁:横ナテ 胎部部:ナテ	Ⅰ区	
201	堊	15.0			10	口縁部部;つまみ上げ状の横ナテ→面取り 口縁:横ナテ		横ナテ	Ⅲ区	
202	堊	16.2			14	口縁部部;つまみ上げ状の横ナテ→面取り 口縁:摩耗不明		摩耗不明	Ⅲ区	
203	堊	15.0			10	横ナテ		横ナテ	Ⅲ区	
204	堊	13.0			10	横ナテ		横ナテ	Ⅲ区	
205	堊	16.6			10	口縁:横ナテ 胎部部:ハケ		口縁:横ナテ 胎部部:ナテ 胎部部:流磨り・ハケ	Ⅲ区	
206	堊	17.7			18	口縁:横ナテ 胎部部:横ナテ		口縁:胎部部;横ナテ 胎部部:流磨り	Ⅲ区	

番号	種	法量 (cm)		新土	成形・調整・文様			備考
		口径	底径		器高	外	内	
207	甕	14.2		18.6	203	口径：横ナデ 胴上部：旋削り→ナデ 胴下部→底部：旋削り	口径：横ナデ 胴上部：横ナデ 胴下部：旋削り 底部：横ナデ→ナデ	Ⅱ区
208	甕	17.8			304	口径：横ナデ 胴部：きざり状工具による彫痕	口径：横ナデ 胴部：横ナデ→ナデ	Ⅲ区
209	杯	14.1	6.6		304	旋削り	旋削り	Ⅰ区
210	環	16.1	4.8		103	口径→環部上弁：旋削り 底部：旋削り→旋削り	旋削り→黒色処理	Ⅰ区
211	高杯	20.1			105	旋削り・赤彩	旋削り・赤彩	Ⅱ区
212	高杯	12.7	8.0	12.1	完	環部：旋削り・赤彩 胴部：旋削り・赤彩 三角形透孔4	環部：旋削り・赤彩 胴部：ナデ	Ⅰ区
213	高杯		13.5		103	縦旋削り・赤彩 三角形透孔・円孔透孔各3単位	横ナデ→ナデ	Ⅱ区
214	高杯		10.0		203	旋削り・赤彩 円形透孔8	口径：旋削り・赤彩 胴部：ナデ	Ⅱ区
215	高杯	18.1	13.9	15.4	103	環部：横ナデ→旋削り 胴部：横ナデ→旋削り	環部：横ナデ→旋削り 胴部：横ナデ→ナデ	Ⅱ区
216	高杯	17.3	14.8	13.3	304	環部：明文状の縦旋削り 胴部：縦旋削り	環部：旋削り 胴部：しぼり→ナデ	Ⅱ区
217	高杯	19.8	13.7	11.0	304	環部：明文状の縦旋削り 胴部：縦旋削り	環部：明文状の縦旋削り 胴部：しぼり→ナデ	Ⅰ区
218	高杯		17.5		203	縦旋削り	しぼり→ナデ	Ⅰ区
219	高杯	22.7	17.4	16.7	304	環部：横旋削り 胴部：縦旋削り	環部：横旋削り 胴部：しぼり→ナデ	Ⅱ区
220	高杯		14.6		203	縦旋削り	しぼり→ナデ	Ⅱ区
221	高杯	17.1			103	横旋削り	旋削り→黒色処理	Ⅱ区
222	高杯		13.4		完	縦旋削り	しぼり→ナデ	Ⅱ区
1・A号通址第2層								
223	甕	20.0			104	口径：縦旋削り・赤彩 胴部：横旋削り	縦旋削り・赤彩	Ⅱ区
224	甕	16.2			104	口径：横旋削り 胴部：縦旋削り	口径：横ナデ 胴部：ナデ	Ⅱ区 R10
225	甕				完	口径：縦旋削り・赤彩 胴部：横旋削り	口径：横ナデ 胴部：ナデ	Ⅱ区 R20
226	甕	12.0			105	横旋削り 縦旋削り・赤彩	縦旋削り・赤彩	Ⅱ区
227	甕	11.6			109	横旋削り 旋削り・赤彩	旋削り・赤彩	Ⅱ区
228	大口甕	15.0			104	口径：2層・1対の割溝孔 旋削り・赤彩 胴部：右回り3連止の縦状文 胴部：旋削り・赤彩	口径：横旋削り・赤彩 胴部：ナデ	Ⅱ区
229	甕	15.9			102	縦旋削り	胴部不明	Ⅰ区
230	甕	12.2			203	口径：旋削り 胴部：斜→縦旋削り	旋削り→旋削り	Ⅱ区
231	甕	12.7			103	口径：胴部；つまみ上げ状の割溝孔 口径：横ナデ 胴上部：縦旋削り 胴下部：縦旋削り	口径：横ナデ 胴上部：横旋削り 胴下部：横ナデ	Ⅱ区
232	甕	8.4	12.9		105	旋削り 胴部詳細不明	胴部不明	V区
233	甕	9.7	12.6		405	口径：旋削り 胴部：不明	口径：旋削り 胴上部：横ナデ 底部：ハケ	Ⅱ区
234	甕	8.5			203	口径：縦旋削り・赤彩 胴部：斜→縦旋削り・赤彩	口径：旋削り→黒色処理 胴部：ナデ	Ⅲ区
235	甕				完	胴部詳細不明	胴上部：斜→ナデ 口径：ハケ	Ⅱ区 R3
236	甕	8.3			102	胴部詳細不明	胴部不明	Ⅱ区 R11
237	甕	9.3			203	口径：縦旋削り 胴部：縦旋削り	ナデ→黒色処理	Ⅱ区
238	小甕				203	胴部：横ナデ→ナデ 胴上部：旋削り 底部：旋削り→旋削り 環状透孔	口径：旋削り 胴部：ナデ	Ⅲ区
239	小甕				102	旋削り	ナデ	V区
240	甕	31.8			106	文様：Ⅱ 口径：縦状文→下 胴部：右回り3連止の縦状文	ハケ→横旋削り	Ⅰ区
241	甕	16.0			109	口径：横ナデ 胴部：ハケ	横ナデ	Ⅰ区
242	甕	26.6	30.4	38.9	304	口径：縦旋削り 胴部：右回り2連止の縦状文 胴部：縦旋削り状文→縦旋削り 底部：旋削り	口径：横ナデ 胴部：ハケ→旋削り	Ⅱ区 R4
243	甕	17.5	6.0	33.3	203	口径：縦旋削り 口径：旋削り 胴部：旋削り	口径：旋削り 胴部：旋削り	Ⅱ区 R1
244	甕	16.0			203	口径：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口径：横ナデ 胴部：旋削り	Ⅱ区 R8
245	甕	14.0			103	口径：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口径：横ナデ 胴部：旋削り→ハケ	Ⅱ区
246	甕	17.5			203	口径：横ナデ 胴上部：ハケ 胴下部：旋削り→ハケ→ナデ	口径：横ナデ 胴部：旋削り→ハケ	V区
247	甕	16.8			104	口径：横ナデ 胴部：ハケ	口径：横ナデ 胴部：横ナデ→ナデ	Ⅱ区
248	甕	17.8	21.4		102	口径：ハケ→横ナデ 胴部：旋削り→ナデ	口径：横ナデ→ナデ 胴部：旋削り→ナデ	Ⅱ区
249	甕	20.8			304	口径：横ナデ 胴部：旋削り→ナデ	口径：ナデ 胴部：ナデ	Ⅱ区
250	甕	18.8			104	口径：横ナデ 胴部：横ナデ→ナデ	口径：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	Ⅱ区 R11
251	甕	18.2			203	口径：横ナデ 胴部：旋削り 粘土層接合面を顕著に残す	口径：横ナデ 胴部：旋削り	V区
252	甕	15.9			102	口径：横旋削り (胴部詳細不明)	ハケ→横旋削り	Ⅰ区
253	甕	14.4			304	横ナデ	横ナデ	Ⅰ区
254	甕	4.0			103	胴下部：ハケ 胴部：旋削り	旋削り	Ⅱ区
255	甕	10.5	4.9	10.0	103	口径：横ナデ 胴部：横ナデ→ナデ 胴下部：ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	Ⅱ区
256	甕	11.2			203	丁零な縦旋削り	旋削り	Ⅱ区
257	甕	14.0			103	口径：胴部；胴部不明 底部：旋削り→旋削り	旋削り→黒色処理	Ⅱ区
258	甕	12.5			103	口径：横ナデ 胴部：旋削り→ナデ	旋削り	Ⅱ区
259	甕	16.6	8.5		203	口径：横ナデ→旋削り 胴部：旋削り→旋削り	旋削り	Ⅱ区 R8
260	杯	13.5	5.3		203	ハケ→旋削り 底部：旋削り→旋削り	旋削り	Ⅱ区
261	杯	14.1	8.3		102	口径：横ナデ 環部：旋削り→旋削り	旋削り→黒色処理	Ⅱ区
262	杯	12.8	5.5		103	口径：横ナデ→横旋削り 環部：旋削り→旋削り	旋削り	Ⅱ区
263	杯	15.0	5.8		102	口径：横ナデ 環部：旋削り→旋削り	旋削り	Ⅱ区
264	杯	12.4	5.9		203	旋削り	旋削り	Ⅰ区
265	杯	16.0	5.7		203	口径：横ナデ 環部：旋削り→旋削り	横ナデ→旋削り	Ⅱ区
266	杯	15.2	8.1		405	口径：横ナデ 環部：ハケ→横ナデ	ハケ→横ナデ→黒色処理	Ⅰ区

番号	種類	位置 (m)			遺存状況	出土	成 形・調 整・文 様		備考
		口径	底径	高さ			外 面	内 面	
267	塚	12.8	5.5	1/3		口縁：鉄ナデ→模造焼き 坏部：瓦割り→造焼き	造焼き→黒色処理	M区	
268	塚	14.6		2/3		口縁：鉄ナデ 坏部：瓦割り→造焼き	造焼き？	M区	
269	塚	12.9	5.9	1/3		摩耗不明	摩耗不明	M区	
270	塚	14.4	6.3	1/2		摩耗詳細不明	造焼き→黒色処理	M区	
271	塚	12.8	5.1	2/3		口縁：模造焼き 坏部：瓦割り→造焼き	造焼き	B区	
272	塚	12.0	4.1	1/2		口縁：造焼き 坏部：瓦割り→造焼き	鉄ナデ→造焼き	V区	
273	塚	10.9		1/3		造焼き？	造焼き？	B区	
274	塚	11.8	4.4	1/2		口縁：鉄ナデ 底部：瓦割り→ナデ	ナデ	B区	
275	塚	13.0	3.0	1/2		瓦割り→造焼き	造焼き	M区	
276	塚	16.8	7.1	2/3		口縁：模造焼き 底部：瓦割り→造焼き	造焼き→黒色処理	M区	
277	塚	15.3		1/2		造焼き	造焼き→黒色処理	M区	
278	高塚	15.2		3/4		口縁部部：山形突起4 坏部：造焼き・赤彩 胴部：造焼き・赤彩 三 角形透孔4	坏部：造焼き・赤彩 胴部：ナデ		
279	高塚	17.3	12.7	12.6	完	坏部：模造焼き 胴部：模造焼き 竹管による円形突起1	坏部：造焼き 胴部：ナデ	V区R9	
280	高塚	17.8	12.8	12.3	2/3	坏部：造焼き 胴部：ナデ			
281	高塚	19.4	13.9	14.2	1/2	坏部：模造焼き 胴部：模造焼き	坏部：造焼き 胴部：瓦割り→ナデ	I区	
282	高塚	17.8	14.6	13.8	3/4	坏部：模造焼き 坏部下：模造瓦葺 胴部：模造焼き	坏部：造焼き 胴部：ナデ	B区	
283	高塚	16.6	12.6	11.2	3/4	坏部：模造焼き 胴部：模造焼き	坏部：模造焼き 胴部：しぼり→ナデ	M区	
284	高塚	18.9	14.5	14.5	2/3	坏部：ハケ→造焼き 胴部：造焼き	坏部：ハケ→造焼き 胴部：ナデ	M区	
285	高塚	18.4	14.9	15.1	2/3	坏部：ハケ→造焼き 胴部：造焼き	坏部：ハケ→造焼き 胴部：ナデ・ハケ	M区R10	
286	高塚	17.5		3/4		摩耗不明	摩耗不明	B区R6	
287	高塚	16.8		2/3		造焼き	坏部：造焼き 胴部：ナデ	M区	
288	高塚	21.6		2/3		坏部：ハケ→造焼き 胴部：造焼き	坏部：造焼き	D区・	
289	高塚	15.8		2/5		坏部：模造焼き	坏部：模造焼き	I区	
290	高塚	15.7		2/5		ハケ→造焼き	ハケ→造焼き	M区	
291	高塚	12.8		2/5		摩耗不明	摩耗不明	I区	
292	高塚	18.8	12.4	14.0	2/3	坏部：造焼き 胴部：造焼き	坏部：造焼き 胴部：しぼり→ナデ	B区	
293	高塚	18.4	13.4	13.2	2/3	坏部：造焼き 胴部：造焼き	坏部：造焼き 胴部：しぼり→ナデ	B区	
294	高塚	18.6	12.9	13.0	2/3	坏部：造焼き 胴部：ハケ→造焼き	坏部：造焼き 胴部：ナデ		
295	高塚	17.6		1/3		坏部：模造焼き 胴部：模造焼き	坏部：針造焼き 胴部：鉄ナデ	B区	
296	高塚	16.8	11.6	12.8	2/5	坏部：模造焼き 胴部：模造焼き	坏部：摩耗不明 胴部：ナデ	I区	
297	高塚	26.6	17.0	20.1	3/4	坏部：ハケ→模造焼き 胴部：模造焼き	坏部：造焼き 胴部：ナデ	B区R6	
298	高塚	22.6		1/4		ハケ→模造焼き	模造焼き	M区	
299	高塚	21.1		2/3		ハケ→造焼き	ハケ→造焼き	B区	
300	高塚	23.6		完		造焼き	造焼き	M区	
301	高塚	17.9	12.8	16.0	1/3	坏部：ハケ→造焼き 胴部：ハケ→造焼き	坏部：鉄ナデ→造焼き 胴部：瓦割り→鉄ナデ		
302	高塚	11.4		完		模造焼き 両部取付	ナデ	B区	
303	高塚	17.8		3/4		模造焼き	ハケ→ナデ	B区	
304	高塚	19.4	14.6	15.1	2/3	坏部：瓦割り→造焼き 胴部：造焼き	坏部：造焼き→黒色処理 胴部：鉄ナデ→ナデ	I区	
305	高塚	14.9	12.8	15.5	2/3	造焼き（摩耗不明）	坏部：造焼き→黒色処理 胴部：ナデ		
306	高塚	14.9		3/4		口縁部部：内突へ肥厚 坏部：造焼き	造焼き→黒色処理	B区	
307	高塚	9.5		2/3		ハケ→造焼き	造焼き→黒色処理	M区	
1-A号墳址									
308	塚	7.0		2/3		口縁：鉄ナデ 胴部：沈殿区画→焼文化粧	ナデ	B区4層	
309	塚	7.9		完		口縁部部：L及焼文 胴部：L及焼文地文→沈殿区画	口縁：鉄ナデ 胴部：ナデ	B区5層	
310	塚	8.6		2/3		口縁部部：L及焼文 胴部：軸土帯間付突帯 L及焼文+沈殿区画	口縁：鉄ナデ 胴部：ナデ	4層	
311	塚	30.2		2/3		口縁部部：L及焼文 口縁：ハケ→ナデ 胴部：L及焼文+沈殿区画	口縁：鉄ナデ 胴部：ナデ	B区2層	
1-B号墳址第5層									
312	塚	12.8	5.7	14.6	完	口縁：造焼き・赤彩 胴部：造焼き・赤彩 胴下手は軸土帯以前の瓦割り直を面取り残す 底部：造焼き	口縁：造焼き・赤彩 胴部：瓦割り	M区R62	
313	塚	11.8	4.4	15.3	完	口縁：ハケ→造焼き・赤彩 胴部：ハケ→造焼き・赤彩 底部：造焼き	口縁：ハケ→造焼き・赤彩 胴部：ナデ	B区R73	
314	塚	9.4	5.2	11.7	完	口縁：造焼き・赤彩 胴部：瓦割り→造焼き・赤彩 底部：瓦割り	口縁：造焼き・赤彩 胴部：瓦割り 輪縁み取を 削ぎに残す	M区R60	
315	塚	12.6		1/4		模造焼き・赤彩	模造焼き・赤彩	M区	
316	塚	4.7		1/3		ハケ→造焼き・赤彩 底部：瓦割り	鉄ナデor瓦割り	M区R65	
317	塚	12.5	5.1	21.0	完	口縁：模造焼き・赤彩 胴部：模造焼き・赤彩 底部：瓦割り	口縁：造焼き・赤彩 胴部：瓦割り？ 胴下部： ハケ	M区R59	
318	塚	18.2		1/8		口縁：鉄ナデ 胴部：ハケ	鉄ナデ	M区	
319	塚	13.2		2/5		文様：I A 胴部：右回り等面取りの磨状文	造焼き	M区	
320	塚	24.4		2/3		文様：I A 胴部：右回り3連止の磨状文	造焼き 胴部付近のみ磨取り面残す	M区R65	
321	塚	22.1	7.0	25.2	2/3	口縁部部：面取り 文様：I A 胴部：右回り3連止の磨状文 胴下部： 模造焼き 底部：磨取り→造焼き 底部：造焼き	造焼き	V区	
322	塚	16.1		1/5		文様：I A 胴部：右回り3連止の磨状文 胴部：文様なし ハケ→ 模造焼き	ハケ→模造焼き	M区	
323	塚	5.9		2/3		文様：I A 胴部：右回り3連止の磨状文 胴部：模造焼き 底部：磨取り 模造瓦葺 底部：瓦割り	造焼き	M区R61	

番号	器種	法重 (cm)		高さ	出土	造形・装飾・文様			備考	
		口縁	底縁			外 部	内 面			
324	白台費	20.3			45	文様：I 口縁：波状文飾文順不定 頸部：右回り4進止の帯状文 胴上部：波状文上・下 胴下部：ハケ→縦波帯 胴部：縦波帯	口縁：ハケ→縦波帯 胴部：縦波帯 胴部付足：ハケ→縦波帯		Ⅱ区 R45	
325	高環	13.5			34	口縁：縦波帯・赤彩 胴部：縦波帯・赤彩 三角形透孔4	口縁：縦波帯・赤彩 胴部：ナデ		Ⅱ区 R42	
326	高環				定	縦波帯・赤彩	口縁：縦波帯 胴部：ナデ		Ⅱ区	
327	高環	11.9			20	縦波帯・赤彩 円形光輪	口縁：縦波帯・赤彩 胴部：ハケ→ナデ		Ⅱ区	
328	高環	9.8			20	縦波帯・赤彩 胴部：波帯による透孔	口縁：縦波帯・赤彩 胴部：波帯		V区	
329	蓋	19.1			20	口縁：折ハケ 胴部：波帯 胴部：波帯より2本の対の地による	口縁：ハケ 胴部：ナデ		Ⅱ区 R38	
330	蓋				10	口縁：折ナデ 胴部：波帯 波帯区画→右回り等間隔止の帯状文→波状文(上→下)	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ		Ⅱ区	
I・B号通箱4層										
331	蓋	16.0			34	口縁：ハケ→ナデ 胴部：波帯 波帯より2本の対の地による	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ		Ⅱ区 R49	
332	蓋	24.4			10	口縁：ハケ→ナデ	ハケ→縦波帯・赤彩		N区	
333	蓋	17.4			10	口縁：ハケ→ナデ	ナデ			
334	蓋				10	口縁：ナデ 胴部：波状文→帯状文→波状文→波帯区画	口縁：縦波帯 胴部：縦波帯		N区	
335	蓋	6.8			20	胴上部：ハケ→縦波帯 胴下部：ハケ→縦波帯 底部：波帯	ハケ→ナデ		V区	
336	蓋	10.4		2.0	10	波帯帯・赤彩 口縁：2個一対の透孔	ハケ→ナデ		Ⅱ区	
337	口蓋	13.1			18	口縁部部：波帯より→L形透孔 口縁：2個一対の透孔 波帯帯・赤彩	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：ハケ→波帯帯		Ⅱ区	
338	蓋				20	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯より2本の対の地による 波状文→円形透孔 胴部：波帯帯・赤彩	口縁：縦波帯帯・赤彩 胴部：波帯ナデ		N区 R74	
339	蓋	21.2			10	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯より2本の対の地による	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：ハケ→波帯帯		I区	
340	蓋	20.4			20	口縁部部：山形突起+透孔 口縁：縦波帯帯・赤彩 胴部：波帯より2本の対の地による	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：ハケ→ナデ		Ⅱ区	
341	蓋				10	口縁：折ハケ→波帯帯 胴部：波帯より2本の対の地による	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：ハケ→ナデ		Ⅱ区	
342	蓋	6.2			20	口縁：縦波帯帯 胴部：波帯より2本の対の地による	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯ナデ		Ⅱ区	
343	蓋	12.5	5.1	16.5	定	縦波帯帯・赤彩 底部：波帯より→ナデ	口縁：ナデ(波帯不明) 胴部：ハケ→ナデ		Ⅱ区	
344	蓋	10.3	4.0	13.1	定	口縁：縦波帯帯・赤彩 胴上部：縦波帯帯・赤彩 胴下部：縦波帯帯・赤彩 底部：波帯	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯より→ナデ		Ⅱ区 R38	
345	蓋	11.2			10	波帯帯・赤彩	波帯帯・赤彩		Ⅱ区	
346	蓋	13.1			10	波帯帯・赤彩	波帯帯・赤彩		Ⅱ区	
347	蓋	4.2			定	胴上部：波帯帯・赤彩 胴下部：ナデより波帯	ナデ		Ⅱ区	
348	蓋	5.2			45	胴部：波帯より2本の対の地による	ナデ→波帯		Ⅱ区	
349	蓋				10	波帯帯・赤彩	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯より→ナデ		Ⅱ区	
350	蓋	4.6			10	波帯帯・赤彩 底部：波帯	波帯ナデ→ナデ		Ⅱ区 R47	
351	蓋	8.0			10	波帯帯	波帯ナデ→ナデ		Ⅱ区 R47	
352	蓋	7.0			45	胴上部：波帯帯帯・赤彩 胴部：ハケ→縦波帯帯	波帯ナデ→ナデ		Ⅱ区 R94	
353	蓋	9.8			10	ハケ→縦波帯帯	ハケ		Ⅱ区	
354	蓋				14	胴部：ハケ→波帯帯・赤彩 底部付近のみ波帯帯以前に波帯	波帯ナデ→ナデ		Ⅱ区	
355	蓋	13.3			10	口縁部部：波帯より2本の対の地による	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯帯		Ⅱ区	
356	蓋	6.2			12	胴部：波帯帯帯・赤彩 底部：波帯より→赤彩	波帯帯		Ⅱ区	
357	蓋	9.7	5.2	17.4	20	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ		V区	
358	蓋	12.1			20	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯帯・赤彩	口縁：波帯帯・赤彩 胴部：波帯より→波帯帯		Ⅱ区 R51	
359	蓋	5.8			10	ハケ→波帯帯 底部：波帯	ハケ		Ⅱ区	
360	蓋	19.7			20	口縁部部：波帯より2本の対の地による 胴部：3本の対の波帯帯状文 胴下部：波帯	口縁：波帯ナデ 胴上部：ナデ 胴下部：ハケ→波帯帯		Ⅱ区 R30	
361	蓋	19.1	7.3	24.8	34	口縁部部：波帯より2本の対の地による 胴部：波帯より2本の対の地による	口縁：ナデ 胴上部：ハケ→波帯帯 胴下部：波帯帯		Ⅱ区 R45	
362	蓋	32.4	11.4	35.3	20	口縁部部：波帯より2本の対の地による 胴部：波帯より2本の対の地による	口縁：波帯帯 胴部：波帯		Ⅱ区 R41・R2	
363	蓋	20.6			18	口縁部部：波帯より2本の対の地による 胴部：波帯より2本の対の地による	ハケ→波帯帯		Ⅱ区	
364	白台費				45	波状文 ハケ→波帯帯	波帯帯		Ⅱ区	
365	蓋	21.2			14	文様：A B	波帯帯		Ⅱ区	
366	蓋	21.1			14	文様：B B 胴部：右回り4進止の帯状文	口縁：波帯帯 胴部：波帯帯 胴部：波帯より→波帯帯		Ⅱ区	
367	蓋	10.5	4.6	12.0	定	文様：I A 胴部：右回り3進止の帯状文 胴下部：縦波帯帯 底部：波帯	口縁：波帯帯帯 胴部：波帯帯		Ⅱ区	
368	蓋	14.9	5.4	17.6	20	文様：I E (波状文飾文順不定) 胴部：右回り4進止の帯状文 胴下部：ハケ→波帯帯帯 底部：波帯	口縁：波帯帯帯 胴部：波帯より→波帯帯 胴部：波帯帯		N区 R75	
369	蓋	14.2	8.8	17.5	20	文様：I A 胴部：右回り等間隔止の帯状文 胴下部：ハケ→縦波帯帯	口縁：波帯ナデ 胴上部：ハケ→ナデ 胴下部：波帯		V区	
370	蓋	17.0			10	口縁部部：波帯より2本の対の地による 文様：I A 胴部：右回り3進止の帯状文	口縁：波帯帯帯 胴部：波帯帯		Ⅱ区	
371	蓋	14.9			10	文様：I A 胴部：右回り3進止の帯状文	波帯帯		Ⅱ区	
372	蓋	15.4			14	文様：B C 胴部：右回り3進止の帯状文	口縁：ハケ→波帯帯帯 胴部：波帯より→波帯帯		Ⅱ区	
373	蓋	16.3			34	文様：I A 胴部：波帯より2本の対の地による	波帯帯 胴部付近のみ波帯より→波帯帯		Ⅱ区	
374	蓋	13.4			20	文様：I A 胴部：右回り3進止の帯状文	波帯帯 波帯帯以前に波帯の可能性がある		Ⅱ区 R42	

番号	種	法量 (m)			遺存度	跡	成 形・調 整・文 様		前 号
		口径	底径	器高			外 面	内 面	
375	甕	13.6		10		文様: I A 胴部: 右回り3連止の櫛状文 胴下部: 縦走り	口縁: 横走り	胴部: 横走り	I 区
376	甕	13.2		20		文様: I A 胴部: 右回り2連止の櫛状文 胴下部: ハケ→走り	横走り		Ⅲ区
377	甕	14.0		20		文様: I A (口縁部は施文単位等に施文順序異なる) 胴部: 右回り等間隔止の櫛状文 胴下部: 縦走り	ハケ→縦走り		Ⅲ区R46
378	台付甕	9.0		20		文様: I B 胴部: 右回り多連止の櫛状文 胴下部: ハケ→縦走り 脚部: ハケ→縦走り	胴部: ハケ→走り	脚部: 横ナデ	Ⅲ区R51
379	甕	11.3		10		文様: I A 胴部: 右回り多連止の櫛状文 胴下部: ハケ→ナデ	口縁: ナデ 胴部: ハケ		Ⅱ区
380	台付甕	8.4	6.7	10.7	完	文様: I B 胴部: 縦走り 脚部: 縦走り	胴部: 縦走り 脚部: ナデ		Ⅳ区
381	甕	14.4	6.1	22.0	完	口縁: 縦走り 胴部: 斜折線 底部: 鹿走り	口縁: 縦走り 胴部: 鹿走り		Ⅲ区R43
382	甕			10		文様: I A ? 胴部: 右回り4連止の櫛状文	縦走り		Ⅴ区
383	甕	12.9	5.2	11.4	3/4	口縁部: 横ナデ→取取り 口縁: 斜折線ナデ 胴部: 斜ハケ 底部: ナデ	口縁: 斜折線ナデ 胴部: ハケ		Ⅲ区
384	甕	17.1		20		口縁: 斜折線ナデ 胴部: 斜ハケ	口縁: 斜折線ナデ 胴部: 鹿走り→横ナデ 胴部: 鹿走り→ナデ		Ⅲ区
385	甕	22.4		3/4	○	口縁部: 横ナデ→取取り 口縁: ハケ→横ナデ 胴部: ハケ	口縁: 横走り	胴部: 鹿走り→ナデ	Ⅴ区R51
386	甕	15.6		10	○	口縁: 横ナデ 胴部: ハケ→ナデ 胴部: ハケ	口縁: 横ナデ 胴部: 鹿走り→ナデ (表面詳細不明)		Ⅴ区
387	甕	21.3		10	○	口縁部: 横ナデ→取取り 口縁: 横ナデ	口縁: 横ナデ 胴部: 鹿走り		Ⅲ区
388	甕	16.0		10	○	口縁部: 横ナデ→取取り 口縁: ハケ→横ナデ	資料詳細不明		
389	台付甕	15.8		10	○	口縁部内面: 取取り 口縁: 横ナデ→ハケ工角折線 胴部: 斜ハケ→横ナデ	口縁: 横ナデ 胴部: 斜ハケ 胴部: 鹿走り→ナデ		Ⅲ区R54
390	台付甕	13.5	8.6	15.2	完	口縁部: つまみ上げ状の横ナデ→取取り 口縁: ハケ→横ナデ 胴上部: 斜ハケ 胴下部: ハケ→走り (胴中位付近は部分的に鹿走り有り) 脚部: ハケ→縦走り	口縁: ハケ→横走り 胴上部: 横走り 胴部: 縦走り	脚部: ナデ	Ⅴ区R54
391	台付甕	12.0		完		縦走り	胴部: 走り	脚部: 横ナデ	Ⅴ区
392	台付甕	10.2		完		ナデ 脚部: 鹿走りによる取取り	胴部: ナデ 脚部: ナデ		Ⅴ区
393	台付甕	9.2		3/4		斜ハケ	胴部: ナデ 胴部: ハケ→ナデ		Ⅴ区
394	台付甕	13.1		10	○	口縁: ハケ→ナデ→走り 体部: ハケ→走り	口縁: 走り	体部: ハケ→走り	Ⅲ区
395	高坏	22.2	16.1	21.0	20	坏部: 走り・赤彩 脚部: 縦走り・赤彩	坏部: 走り・赤彩 脚部: 横ナデ		Ⅴ区R51・55
396	高坏	18.6		20		縦ハケ 三角形透孔4	ハケ→ナデ		Ⅲ区
397	高坏	16.6	12.2	12.2	完	坏部: 走り・赤彩 脚部: 走り・赤彩 円板光焼	坏部: 走り・赤彩 脚部: ナデ		Ⅴ区R48・51
398	坏	14.9	4.5	5.8	1/4	坏部: 走り・赤彩 脚部: 走り・赤彩	走り・赤彩		Ⅲ区
399	高坏	14.2		10		走り・赤彩	坏部: 走り・赤彩 脚部: ナデ		Ⅴ区R46
400	高坏	14.0		1/4		口縁部: 山形突起 坏部: 走り・赤彩 脚部: 走り・赤彩 三角形透孔4	坏部: 走り・赤彩 脚部: ナデ		Ⅲ区
401	鉢	28.7		1/4		ハケ→走り	ハケ→走り		Ⅴ区
402	高坏	24.4		10		口縁部: 取取り→縦ハケ→走り・赤彩 坏部: 走り・赤彩	走り・赤彩		I 区
403	高坏	11.2		1/4		走り・赤彩 三角形透孔	ハケ→ナデ		I 区
404	高坏	9.6		完		走り・赤彩 脚部内肉	坏部: 走り・赤彩 脚部: 走り		Ⅲ区
405	高坏	18.4		10		走り・赤彩	ナデ 透孔のみ縦走り		Ⅰ区
406	高坏	11.8		完		走り 円形透孔4 脚部内肉	しぼり→ナデ		I 区
407	高坏	14.8		20		脚部: 取取り 走り・赤彩	横ナデ→ナデ		Ⅲ区R48
408	鉢台	10.4		10		走り	横ナデ ハケ→ナデ		Ⅴ区
1・台付調子器3種									
409	器	8.4		3/4		胴部: 右回り等間隔止の櫛状文2段 胴部: ハケ→ナデ	資料残存・詳細不明		Ⅲ区R53
410	器			1/4		口縁: ハケ→ナデ 胴部: 右回り等間隔止の櫛状文→流状文→辻線区画	ハケ→ナデ		Ⅲ区
411	器			1/4		二本一対の流状文→流状文→流状文→流状文→流状文→流状文→流状文	ナデ		Ⅲ区
412	器	8.7		20		ハケ→走り 底部周辺: 縦走り 底部: 鹿走り	横ハケ		Ⅴ区R6
413	器	8.6		10		胴上部: 走り・赤彩 胴下部: 縦走り 底部: 鹿走り	資料不明		Ⅴ区R66
414	器	4.5		完		胴上部: 走り・赤彩 胴下部: 縦走り 底部: 鹿走り	ナデ		Ⅲ区R40
415	器	5.8		20		縦走り 底部: 鹿走り	鹿走り→ナデ		Ⅱ区
416	甕	12.2		3.4	1/4	走り・赤彩	走り・赤彩		Ⅲ区
417	甕	12.2		2.2	10	走り・赤彩 2割→1割の斜折線	走り・赤彩		Ⅲ区
418	甕	15.8	7.2	23.1	10	口縁: ハケ→走り・赤彩 胴部: ハケ→走り・赤彩 底部: 資料不明	口縁: ハケ→走り・赤彩 胴部: 鹿走り		Ⅲ区
419	甕	15.9		20		走り・赤彩	ハケ		Ⅳ区
420	甕	28.6		10		文様: I A 胴部: 右回り3～4連止の櫛状文	口縁: ハケ→縦走り 胴部: ハケ		Ⅱ区R37
421	甕	17.5		3/4		文様: I A 胴部: 右回り2連止の櫛状文	口縁: 横走り 胴部: 鹿走り→走り		Ⅱ区R30
422	甕	12.6	5.4	14.0	10	文様: I A 胴部: 右回り等間隔止の櫛状文 胴部: ハケ→縦走り	口縁: ハケ→縦走り 胴部: 縦走り		Ⅴ区
423	甕	14.1		1/6		口縁: 斜折線ナデ 胴部: 右回り等間隔止の櫛状文 胴部: 流状文	縦走り		Ⅴ区
424	甕	14.2		完		口縁部: 取取り 文様: I B 胴部: 縦走り	走り		Ⅴ区R66
425	甕			1/8		文様: I A 胴部: 右回り2連止の櫛状文	口縁: 横走り 胴部: ハケ→ナデ		Ⅴ区R66
426	甕	15.6		10		ナデ			
427	甕	7.5	4.6	9.8	3/4	口縁: 横ナデ 胴部: 鹿走り→ナデ 底部: 鹿走り	口縁: 横ナデ 胴部: ハケ→ナデ		Ⅲ区
428	甕	22.5		10		口縁: ハケ→ナデ 胴部: 斜ハケ	口縁: 横ナデ 胴部: 鹿走り		Ⅲ区

番号	種別	法量 (cm)			法音度	動土	成 形・調 整・文 様		備 考
		口徑	底径	器高			外 面	内 面	
429	壺	19.3			1/4		口縁: 隆縁ナデ 胴部: 鼓形リ→ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 鼓形リ・ハケ 脚部: ハケ→ナデ	Ⅲ区
430	壺	18.1			1/2		口縁: ハケ→ナデ 胴部: ハケ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 不明	Ⅳ区
431	壺	16.2	6.8	28.1	1/2		口縁: 隆縁ナデ 胴部: ハケ 底部: ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: ハケ・器形リ	Ⅰ区
432	壺	14.5	5.6	12.8	完		口縁: ハケ→隆縁ナデ 胴部: ハケ→隆縁ナデ 底部: ハケ→隆縁ナデ	口縁: ハケ→隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ→隆縁ナデ	Ⅱ区R72
433	高杯	19.1			完		胴部: 即取リ・傾凹 隆縁ナデ・赤彩 三角形透孔5	杯部: 隆縁ナデ・赤彩 脚部: ハケ→ナデ	Ⅳ区
434	小甗	7.9	8.1		完		口縁: 傾上ナデ 胴部: ナデ 底部: 器形リ→ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ	Ⅱ区R72
435	小甗	8.6	7.7		3/4		口縁: ハケ→隆縁ナデ 底部: 器形リ→隆縁ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ	Ⅲ区
436	小甗						隆縁ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: ナデ	Ⅳ区
437	壺	8.7		10.0	4/5		隆縁リ→隆縁ナデ 赤彩縁部不明	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ	
438	杯	12.7			1/4		口縁: 隆縁ナデ 杯部: ナデ 底部: 隆縁リ→ナデ	隆縁ナデ→黒色処理	Ⅰ区
439	ヒコ チュウ	6.3	4.6	3.4	2/3		ナデ	隆縁ナデ	Ⅰ区
1・B号通址第2層									
440	壺	31.8	13.4	43.9	3/4		口縁部: 白形突起 口縁: 隆縁ナデ・赤彩 胴部: 筒輪T字文 (2本) 中只形片文 胴上部: 隆縁ナデ・赤彩 胴下部: 隆縁ナデ	口縁: 隆縁ナデ・赤彩 胴部: 赤彩縁部不明	Ⅱ区R30
441	壺	7.2			4/5		ハケ→隆縁ナデ 赤彩縁部不明 底部: ハケ	口縁: 隆縁ナデ・赤彩 胴下部: 隆縁ナデ→ナデ	Ⅱ区R70
442	壺	22.4	7.2	23.5	2/3		口縁: ハケ→隆縁ナデ 胴部: ハケ→隆縁ナデ 底部: 隆縁ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: ハケ→隆縁ナデ	Ⅲ区R77
443	壺	16.0			1/4	○	ナデ・赤彩	ナデ・赤彩	Ⅲ区
444	壺				3/4		胴部: 有付リ4連止め縁状文 胴部: ハケ→斜隆縁ナデ	ナデ→ナデ	Ⅳ区
445	壺	12.0	6.0	22.7	2/3		口縁: 隆縁ナデ→隆縁ナデ 胴部: ハケ→隆縁ナデ 底部: 隆縁リ	口縁: 隆縁ナデ・赤彩 胴部: 隆縁リ→隆縁ナデ	Ⅰ区
446	壺	4.2			3/4		胴部: 隆縁ナデ 胴上部: 斜ハケ 胴下部: 隆縁リ 底部: 隆縁リ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: ナデ	Ⅲ区
447	小甗	6.2	7.7		完		口縁: 隆縁ナデ→隆縁ナデ 胴部: ハケ→ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ	Ⅰ区R37
448	小甗	7.2	8.1		完		口縁: ハケ→隆縁ナデ 胴上部: ハケ→ナデ 底部: 隆縁リ	口縁: ナデ 胴部: 隆縁ナデ	Ⅱ区R76
449	小甗	7.8	8.6		完		口縁: 隆縁ナデ 胴上部: ナデ 底部: 隆縁リ→ナデ	口縁: ナデ 胴部: 隆縁ナデ→ナデ	Ⅳ区R32
450	壺	24.7	7.2	30.7	4/5		口縁部: 隆縁ナデ 文様: 浮目 胴下部: 隆縁ナデ 底部: 隆縁リ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ 胴下部: 隆縁ナデ	Ⅰ区R30
451	付冨壺	18.4			1/2	○	口縁: 隆縁ナデ→ハケ突起 胴部: ハケ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: ハケ	Ⅱ区
452	付冨壺	9.5			1/2		胴部: 隆縁リ 脚部: ナデ?	胴部: 隆縁リ 脚部: 隆縁リ	Ⅲ区
453	壺	17.8			1/2		口縁: ハケ→隆縁ナデ 胴部: ハケ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ	Ⅱ区R31
454	壺	21.1	7.0	21.2	2/3		口縁: 隆縁ナデ 胴部: ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: ナデ	Ⅲ区R28
455	壺	15.2			1/3		口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁リ→ナデ	口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁リ	Ⅱ区
456	壺	16.6	7.2	24.9	1/2		隆縁ナデ	隆縁ナデ	Ⅲ区
457	壺	9.4			2/3		ハケ→隆縁ナデ	胴ハケ→ナデ	Ⅱ区R31
458	壺	19.0	3.0	11.6	3/4		口縁: ハケ→隆縁ナデ 胴部: 隆縁リ→ナデ	口縁: ハケ 底部: 隆縁ナデ→ナデ	Ⅱ区R70
459	高杯	17.2			2/3		赤彩不明	赤彩不明	Ⅳ区R71
460	高杯	15.0			1/8		隆縁ナデ・赤彩	隆縁ナデ・赤彩	Ⅲ区
461	高杯	15.3			1/2		隆縁ナデ	隆縁ナデ	Ⅳ区
462	高杯	14.4			3/4		隆縁ナデ	隆縁ナデ	Ⅱ区R31
463	高杯	16.4	12.1	10.7	2/3		杯部: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ	杯部: 隆縁ナデ 脚部: 隆縁リ→ナデ	Ⅳ区
464	高杯	13.6	11.1	8.7	4/5		杯部: 隆縁ナデ 胴部: ハケ→隆縁ナデ	杯部: 隆縁ナデ→黒色処理 胴部: ナデ	Ⅱ区R31
465	壺	14.8	6.1		完		口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁リ→隆縁ナデ	隆縁ナデ	Ⅱ区R31
466	杯	13.2	6.3		2/3		口縁: 隆縁ナデ 杯部: 隆縁リ→隆縁ナデ	口縁: 隆縁ナデ 杯部: 隆縁ナデ→隆縁ナデ	Ⅲ区
467	杯	14.7	6.8		完		口縁: 隆縁ナデ 杯部: 隆縁リ→隆縁ナデ	隆縁ナデ	Ⅱ区
468	杯	14.4	5.1		4/5		隆縁リ→隆縁ナデ	隆縁ナデ	Ⅲ区
469	杯	14.2	4.8		1/2		隆縁リ→隆縁ナデ	隆縁ナデ→黒色処理	Ⅲ区
470	杯	11.8			1/4		隆縁ナデ	隆縁ナデ→黒色処理	Ⅳ区
471	鉢	22.7			1/3		隆縁ナデ	隆縁ナデ→黒色処理	Ⅳ区
1・B号通址									
472	壺	4.6			1/2		口縁部: L.R純文 口縁: 2孔を有する耳状の縦状管4 胴部: 沈 底状文→L.R純文	隆縁ナデ	Ⅳ区4層
473	壺	7.0			完		口縁部: L.R純文 口縁: ナデ→隆縁ナデ 胴部: 沈底状文→半月形 刺突状突起 (左面)	口縁: ナデ→隆縁ナデ 胴部: ナデ	Ⅲ区4層
474	壺	16.0			1/10		口縁部: 隆縁ナデによる刺突 口縁: 隆縁部状文	ハケ→隆縁ナデ	
475	壺	24.0			1/6		口縁部: 隆縁ナデによる刺突 口縁: 隆縁部状文→胴部: 隆縁ナデ 先通による刺突	ハケ→隆縁ナデ	
1号通址出土遺物類									
476	皿	11	16		421P 完		口縁→唇部: 隆縁ナデ 胴部: タタキ→ナデ 隆縁ナデ目 文様 胴部: 流状文 胴部: 二条沈線間に刺状文	口縁→胴上部: 隆縁ナデ 底部: 突き出し	Ⅲ区2層
477	皿	11	16				口縁→唇部: 隆縁ナデ 胴下部: タタキ→ナデ 文様 胴部: 流状 文 胴部: 二条沈線間に刺状文	口縁→胴上部: 隆縁ナデ 底部: 突き出し	2層
478	皿	11	16		1/8		唇部: 隆縁ナデ 胴下部: タタキ 文様 胴部: 二条沈線間に流状文	口縁→胴上部: 隆縁ナデ 底部: 突き出し	Ⅲ区3層
479	蓋杯	12.8	4.2		1/2		口縁: 隆縁ナデ 天弁: 隆縁ヘラケズリ (半時計回り)	隆縁ナデ 天弁: スタンプ	Ⅲ区2層
480	蓋杯	12.8	4.2		完		口縁: 隆縁ナデ 天弁: 隆縁ヘラケズリ (半時計回り)	隆縁ナデ 天弁: スタンプ	Ⅲ区2層
481	蓋杯	12	3.2		完		口縁: 隆縁ナデ 天弁: 隆縁ヘラケズリ (時計回り)	隆縁ナデ	Ⅲ区2層
482	蓋杯	13	14.9		1/2		口縁: 隆縁ナデ 底部: 隆縁ヘラケズリ (半時計回り) 底部 へウ記号「×」有	隆縁ナデ	Ⅲ区2層
483	蓋杯	12			1/6		口縁: 隆縁ナデ 胴部: 隆縁ナデ	隆縁ナデ 底部: 不整方向ナデ	Ⅲ区3層

番号	部 種	法庫 (m)		土 質	成 形・面 積・文 様		備 考	
		法庫	高さ		外 面	内 面		
1号墳址トレンチ出土								
484	甕	8.5		203	口縁：甕巻き・赤彩 胴部：右回り等四隅止の櫛状文2→流状文1→流状文赤彩 胴部：甕巻き・赤彩	ハケ（胴上部と下部のハケ帯体は異なる）	2層	
485	甕	20.4		102	口縁：粘土帯貼付の複合口縁・横ナデ 胴上部：ナデ 胴下部：横流巻き	口縁：横ナデ 胴部：横流巻き	2層	
486	甕	21.3		16	口縁部部：面取り→流状文 文様：I A 胴部：2～3連止の櫛状文	ハケ→横流巻き	1層	
487	甕	20.0		103	口縁：ハケ→横ナデ 胴部：縦→斜ハケ	口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	2層	
488	甕	22.5		16	口縁部部：つまみ上げ状の櫛状文→面取り 文様：I A	ハケ→横流巻き	2層	
489	高坏	20.1	11.9	145	坏部：甕巻き・赤彩 胴部：甕巻き・赤彩 円形穿孔 4	坏部：甕巻き・赤彩 胴部：ハケ→ナデ	2層	
490	甕	11.1			口縁：縦流巻き 胴上部：縦流巻き 胴下部：甕巻き→横流巻き	口縁：斜流巻き 胴部：横ナデ→ナデ	2層	
491	灰函	16.6	8.0	5.3	104			
1・C号墳址								
492	台付甕	10.0	6.2	10.1	304	口縁部部：L及縄文 口縁：L及縄文→流状流状文 胴部：L及縄文→の字直文→円形浮文	胴部：ハケ→甕巻き 胴部：ナデ	Ⅱ区
493	灰	9.4	3.0	3.9	203	口縁：2個一對の櫛状文 甕巻き・赤彩	甕巻き・赤彩	Ⅱ区
494	台付甕	13.2			空	口縁：横ナデ 胴部：流状複合櫛状文 胴部：帯形不明	甕巻き	Ⅱ区
495	甕	21.6		104	口縁：ハケ→横ナデ 胴部：横流巻き子文	ナデ	Ⅱ区	
496	甕	15.2		103	口縁：ハケ→横ナデ 胴部：右回り等四隅止の櫛状文→流状文 ハケ→ナデ	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ	V区	
497	甕	18.4	7.0	20.9	203	口縁：横ナデ 胴部：右回り等四隅止の櫛状文→流状文 胴部：縦流巻き	口縁→胴上部：横流巻き 胴下部：縦流巻き	V区
498	甕		8.8	20	口縁：帯形 胴部：2本一對の流状流状文→流状文 胴部：縦流巻き 胴下部：ハケ→横流巻き 底部：流形り	口縁：横流巻き 胴部：ハケ→ナデ	V区	
499	甕		9.8	203	横流巻き	ハケ→ナデ	Ⅱ区	
500	台付鉢	12.1			帯形不明	帯形不明	Ⅱ区	
501	甕	16.1		102	口縁：横ナデ→流状文 胴部：右回り等四隅止の櫛状文 胴部：横流巻き	横ナデ	V区	
502	甕	14.2		103	ナデ	ナデ	Ⅱ区	
503	甕		5.2	203	口縁：横ナデ 胴部：縦ハケ 底部周部：横流巻き 底部：甕巻き	口縁：横ナデ 胴部：甕巻き	V区	
504	高坏	11.4		203	甕巻き・赤彩 三角形穿孔 4	ハケ→ナデ	V区	
505	甕	16.1		103	文様：I A 胴部：右回り等四隅止の櫛状文	甕巻き	Ⅲ区	
506	甕	17.0		103	口縁：横ナデ 胴部：ハケ	口縁：横ナデ	Ⅱ区	
507	甕	16.5		103	口縁：横ナデ 胴上部：ハケ	口縁：横ナデ 胴上部：ナデ	Ⅱ区	
508	甕	19.8		103	口縁部部：横ナデ・面取り 口縁：ナデ	口縁：横ナデ 胴部：甕巻き	Ⅱ区	
509	甕		4.2	104	口縁：不明	ハケ	Ⅱ区	
510	坏	15.7	5.2	7.2	103	坏部：甕巻き 底部：流形り	横流巻き	V区
511	高坏	26.3		102	口縁部部：山形突起 甕巻き・赤彩	甕巻き・赤彩	Ⅱ区	
512	厨台	23.6		103	甕巻き・赤彩	甕巻き・赤彩	Ⅱ区	
1号墳址トレンチ								
513	甕	11.0		304	口縁部部：山形突起 口縁：ハケ→ナデ 胴部：縄文流文→流状文	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ		
514	甕			102	胴部：流状流状文帯2→横流巻き→縄文流文→流状文 胴部：懸垂文	ナデ		
515	甕			103	口縁：ハケ→ナデ 胴部：流状流文→半円形流状流文→懸垂文	ナデ		
516	甕	21.6		103	口縁部部：L及縄文 口縁部：L及縄文→流状流状文 ハケ→甕巻き 胴部：流状流文→L及縄文→流状流状文	口縁：横流巻き・赤彩 胴部：ハケ→ナデ		
517	甕	16.0		103	口縁部部：面取り・L及縄文 口縁部：甕巻き→赤彩	口縁：甕巻き→赤彩 胴部：ナデ		
518	甕			空	口縁：ナデ 胴部：流状流文→半円形流状流文2段 懸垂文	ナデ		
519	甕			102	口縁：ナデ 胴部：L及縄文流帯2→流状流状文→流状流文→円形浮文	ナデ		
520	甕	18.9		104	口縁部部：L及縄文 口縁：ハケ→横ナデ 胴部：横流巻き	横流巻き		
521	甕	10.6		103	口縁：横ナデ 胴部：横流巻き3（上→下） 胴下部：ハケ→甕巻き	帯形不明		
522	台付甕	18.2	11.0	22.2	304	口縁部部：L及縄文 口縁：横ナデ 胴部：右回り等四隅止の櫛状文 胴部：横流巻き3（上→下） 胴下部：横流巻き 胴部：横流巻き	口縁：横ナデ 胴部：ハケ 胴部：ナデ	
523	坏	18.0	6.0	6.4	103	口縁部部：櫛状突起 4 胴部：甕巻き・赤彩 底部：ナデ	ハケ→横流巻き・赤彩	
土器下部敷層 (B層)								
524	甕	19.8		103	口縁：斜流巻き 胴部：横流巻き4（上→下）→横流巻き 胴部：ハケ→横流巻き	口縁：横流巻き 胴部：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ		
525	甕	14.9		103	口縁：甕巻き 胴部：流状流文→流状文2 胴部：甕巻き	口縁：横ハケ→ナデ 胴部：ナデ		
526	甕	18.6		103	口縁：斜ハケ→横ナデ 胴部：流状流文子文 胴部：ハケ→甕巻き	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ		
527	甕	15.2	7.7	30.6	203	口縁部部：山形突起 口縁：縦流巻き 胴部：右回り等四隅止の櫛状文→流状流状文 胴部：ハケ→横流巻き	口縁：横流巻き・赤彩 胴上部：横ナデ→ナデ 胴下部：ナデ	
528	甕	15.1		205	口縁：ハケ→ナデ 胴部：右回り等四隅止の櫛状文→流状文 胴部：ハケ→ナデ	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ		
529	甕	14.8		203	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ	口縁：ハケ→横ナデ 胴部：ナデ		
530	甕	13.5		104	口縁：横ナデ 胴部：横流巻き	口縁：横ナデ 胴部：ハケ		
531	甕	18.5		203	口縁：ハケ→横ナデ 胴部：右回り等四隅止の櫛状文	口縁：ハケ 胴部：ナデ		
532	甕	21.7		104	口縁：横流巻き1 ハケ→ナデ	ハケ→ナデ		
533	甕	7.4		103	口縁：横流巻き 胴部：横流巻き	口縁：横流巻き 胴部：流形り		
534	甕			102	胴部：ハケ→2本一對の流状流状文4 胴部：ハケ→甕巻き	胴部：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ		
535	甕			102	胴部：2本一對の流状流状文2、流状文1 胴上部：ハケ 胴下部：ハケ→横流巻き	胴部：ハケ 胴部は外面と異なる		

番号	部 種	法量 (cm)			造 行 土	造 形 彫 塑 文 様		備 考
		口徑	底径	器高		内 面	外 面	
536	甌				3/4	口縁：ハケ→発着き 胴部：右回り等間隔止の縞状文→流状文2→縞縞縞文	口縁：発着き、赤影 胴部：ナデ	
537	甌				1/3	口縁：発着き 胴部：右回り等間隔止の縞状文→流状文2	胴部：摩耗不明 胴部：ナデ	
538	甌		9.4		1/2	口縁：ハケ→ナデ 胴部：縞縞縞文→2本一対の流状流状文→流縞縞縞文→縞縞縞縞文 胴上部：ハケ 胴下部：ハケ→ナデ 底部：ハケ	口縁：ハケ→ナデ→赤影 胴部：摩耗不明 胴部：ハケ	
539	甌				1/2	胴上部：ハケ→ナデ 胴下部：ハケ→ナデ	ナデ	
540	甌		8.4		4/5	胴部：ハケ→ナデ 底部：流縞縞	胴部：ハケ→ナデ	
541	甌				1/2	口縁：ハケ→ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文→縞縞縞縞文	ナデ→縞い発着き	
542	甌				1/3	口縁：ハケ 胴部：縞縞縞縞文6、発着流状文2	口縁：発着き、赤影 胴部：ハケ→ナデ	
543	甌				1/3	口縁：摩耗不明 胴部：縞縞縞縞文2	ハケ→ナデ	
544	甌		5.2		3/4	胴上部：縞縞縞文 胴下部：発着き 底部周辺：流縞縞→ナデ 底部：流縞縞	胴上部：ハケ→ナデ 胴下部：ナデ→ナデ	
545	甌		26.0		1/3	口縁周縁部：山形突起 口縁：発着き、赤影 胴部：縞縞縞縞文	口縁：発着き、赤影 胴部：流縞縞→ナデ	
546	甌		13.0		1/10	○ ナデ	ナデ	
547	甌		19.9		1/3	発着き、赤影	発着き、赤影	
548	甌		9.0		2/3	口縁：発着き、赤影 胴部：縞縞縞縞文 胴上部：発着き、赤影 胴下部：縞縞縞縞文	口縁：発着き赤影 胴部：流縞縞○ナデ	
549	甌		8.0		4/5	ハケ→発着き、赤影	ナデ	
550	甌		7.2		1/3	ハケ→縞縞縞縞文	ハケ	
551	甌		11.0		4/5	発着き、赤影 胴部：発着き、赤影	口縁：発着き、赤影 胴部：ハケ→ナデ	
552	無蓋甌	11.5	5.0	13.3	2/3	口縁周縁部：2個一対の堅線孔 胴部：発着き、赤影 底部：流縞縞縞縞文	発着き、赤影	
553	短脚甌	11.8			1/8	口縁周縁部：2個一対の堅線孔 胴部：ハケ→発着き、赤影	口縁：縞ナデ 胴部：ハケ	
554	甌		6.6		1/3	発着き、赤影	ハケ→ナデ	
555	甌	14.5	6.5	15.7	4/5	口縁：流縞縞ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴部：縞縞縞縞縞文4(上→下) 底部：縞縞縞	口縁：流縞縞ナデ 胴部：ハケ→部分的に縞い発着き	
556	甌	10.5	5.6	13.5	2/5	文様：1A 胴部：右回り4連止の縞状文 胴下部：縞縞縞縞文	縞縞縞縞文	
557	甌	25.5			1/10	文様：1A 胴部：縞縞縞縞文2	口縁：縞縞縞縞文 胴部：ハケ	
558	甌	18.9			3/4	文様：1A 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴部：縞縞縞縞文	口縁：縞縞縞縞文 胴部：ハケ→ナデ	
559	甌	8.2	4.4	7.9	3/4	口縁周縁部：流縞縞 口縁：縞ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴部：縞縞縞縞文+円形浮文	口縁：縞ナデ 胴部：ハケ→発着き	
560	甌	18.1			1/3	口縁周縁部：ハケ状先周りによる筋目 口縁：縞縞ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴部：流状文(上→下)	口縁：ハケ→発着き 胴部：縞縞縞縞文	
561	甌	21.8			1/2	口縁周縁部：紐土帯回り道しによる覆合口縁 文様：1A 胴部：右回り等間隔止の縞状文	口縁：縞縞縞縞文	
562	甌	13.0			1/4	口縁：流縞縞ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴部：縞縞縞縞縞文(上→下)	ハケ→縞縞縞縞文	
563	甌	22.5			1/10	口縁：縞縞ナデ 流状文(上→下)	縞縞縞縞文	
564	甌	11.5			2/3	文様：1A 胴部：右回り2連止の縞状文	ハケ→縞縞縞縞文	
565	甌		7.6		1/4	文様：1A 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴部：縞縞縞縞縞文 胴下部：ハケ 底部：流縞縞	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	
566	甌	16.6			1/8	文様：1A 胴部：右回り等間隔止の縞状文	発着き	
567	甌	18.2			1/6	文様：1A	縞縞縞縞文	
568	甌	25.1			1/10	口縁：縞縞縞縞縞文(上→下)	縞縞縞縞文	
569	甌	21.0	7.8	27.7	1/5	文様：1B 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴下部：縞縞縞縞文	口縁：縞縞縞縞文 胴部：ハケ→縞縞縞縞文	
570	甌	18.6			1/6	文様：1B 胴部：右回り2連止の縞状文	縞縞縞縞文	
571	台付甌	14.2			4/5	口縁：縞縞ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴部：流状文3(上→下) 胴下部→脚部：ハケ→発着き	口縁：縞縞ナデ 胴部：ハケ→発着き	
572	台付甌	11.6			2/3	口縁周縁部：L形縞文 口縁：縞ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文 胴上部：流状文2 胴下部：発着き	口縁：縞縞ナデ 胴部：発着き？	
573	台付甌	10.5			1/2	口縁：縞縞ナデ 胴部：右回り等間隔止の縞状文→流状文 胴下部→脚部：ナデ○ナデ	口縁：縞縞ナデ 胴部：ハケ→ナデ	
574	台付甌	11.4			1/2	文様：1A 胴下部→脚部：発着き	発着き	
575	高坪	10.6			2/3	発着き、赤影	坪部：発着き、赤影 脚部：流縞縞→ナデ	
576	台付甌	18.6			1/2	口縁周縁部：流縞縞 口縁：縞縞縞縞縞文 胴部：縞縞縞縞縞縞文+円形浮文	口縁：縞縞縞縞文 胴部：ハケ→縞縞縞縞文	
577	台付甌	15.0	11.1	16.9	1/4	口縁周縁部：面取り 口縁→胴部：摩耗不明	口縁：摩耗不明不明 胴部：流縞縞？ 脚部：摩耗不明	
578	鉢	11.6			1/3	口縁：縞ナデ 胴部：縞縞縞縞文 底部：発着き？	口縁：縞縞ナデ 底部：ナデ	
579	坪	15.0	5.3	6.8	1/2	発着き、赤影	発着き、赤影	
580	甌	22.0			1/10	口縁周縁部：面取り 口縁：縞ナデ	摩耗不明不明	
581	甌	18.3			1/10	口縁周縁部：面取り 口縁：縞ナデ	ハケ→ナデ	
582	坪	11.8	4.5	5.8	4/5	発着き、赤影	発着き、赤影	
583	高坪	20.3	11.1	15.2	1/2	口縁周縁部：縞縞縞縞文による筋目 坪部から脚部：発着き、赤影	坪部：発着き、赤影 脚部：ナデ	
584	高坪	20.8			2/3	口縁：縞縞縞縞縞文1 坪部：発着き、赤影	発着き、赤影	
585	高坪？		9.5		3/4	ハケ→縞縞縞縞文 摩耗不明不明	口縁：縞縞縞縞縞文 胴部：ハケ→ナデ	
586	高坪	13.2			2/3	発着き、赤影	坪部：発着き、赤影 脚部：ナデ	
587	高坪	21.6			2/3	発着き、赤影 三角形穿孔	ハケ→ナデ	
588	高坪	11.3			1/2	発着き、赤影	ハケ→ナデ	

石器觀察表

石核觀察表

編號	直徑 (mm)			重量 (g)	厚				寬				備註	圖號	出土地區層位	圖章	
	最大	最小	平均		最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小					平均
1	5.9	5.5	5.2	20.3	1	0.8	0.8	0.8	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

剝離A類觀察表

編號	直徑 (mm)			重量 (g)	厚				寬				備註	圖號	出土地區層位	圖章	
	最大	最小	平均		最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小					平均
2	3.4	2.9	3.3	15.4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	4.6	4.5	4.2	46.7	3	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0

剝片觀察表

編號	直徑 (mm)			重量 (g)	厚 (mm)	寬 (mm)	備註	圖號	出土地區層位	圖章
	最大	最小	平均							
4	5.6	5.2	4.5	42.7	—	—	剝片	剝片	SD1 771-5620	
5	5.7	5.6	5.7	37.7	—	—	剝片	剝片	SD1	

打製石核觀察表

編號	直徑 (mm)			重量 (g)	厚				寬				備註	圖號	出土地區層位	圖章	
	最大	最小	平均		最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小					平均
4	11.9	11.6	11.4	61.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

磨製石核觀察表

編號	直徑 (mm)			重量 (g)	厚				寬				備註	圖號	出土地區層位	圖章	
	最大	最小	平均		最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小					平均
1	1.5	1.5	1.1	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

磨石觀察表

編號	直徑 (mm)			重量 (g)	厚				寬				備註	圖號	出土地區層位	圖章	
	最大	最小	平均		最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小					平均
1	10.1	9.7	11.5	28.8	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
1	16	7.9	11	106.1	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
10	10.1	8.1	11.5	102.6	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

敲石觀察表

編號	直徑 (mm)			重量 (g)	厚				寬				備註	圖號	出土地區層位	圖章	
	最大	最小	平均		最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小					平均
11	10.1	4.5	11	18.7	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
12	1.8	5.4	1.4	76.3	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
13	10.9	4.1	2.8	102.5	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
14	12.6	4.9	2.8	26.6	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
15	11.1	6.8	4.5	456.7	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
16	15.3	4.1	4.1	454.4	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
17	12.6	7.1	4.6	463.3	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
18	10.4	1.2	2.8	18.7	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
19	1.7	3.5	1.8	11.6	1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

太型給刃石斧觀察表

種別	長さ(単位)			径			重量(重量)			刃部	柄部	石部	目録	出土位置	備考
	全長	幅	厚	全径	柄径	刃径	全重	柄重	石重						
石	18.0	5.8	0.4	7.0	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石	16.0	4.8	0.3	6.0	1.1	4.2	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—
石	16.1	5.3	0.3	6.0	1.1	4.7	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—

扁平片刃石斧觀察表

種別	長さ(単位)			径			重量(重量)			刃部	柄部	石部	目録	出土位置	備考
	全長	幅	厚	全径	柄径	刃径	全重	柄重	石重						
石	14.1	3.1	0.1	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石	14.4	2.9	0.1	3.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ノミ状石器觀察表

種別	長さ(単位)			径			重量(重量)			刃部	柄部	石部	目録	出土位置	備考
	全長	幅	厚	全径	柄径	刃径	全重	柄重	石重						
石	14.4	3.1	0.4	3.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

両刃石斧觀察表

種別	長さ(単位)			径			重量(重量)			刃部	柄部	石部	目録	出土位置	備考
	全長	幅	厚	全径	柄径	刃径	全重	柄重	石重						
石	16.4	5.7	0.4	7.1	2.7	5.4	3	1.9	4.1	0.8	—	—	—	—	—

石鎚觀察表

種別	長さ(単位)			径			重量(重量)			刃部	柄部	石部	目録	出土位置	備考
	全長	幅	厚	全径	柄径	刃径	全重	柄重	石重						
石	14.4	5.5	0.7	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石	15.4	6.5	0.8	2.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石	16.0	6.8	0.5	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石	13.3	2.3	0.1	2.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石	15.0	6.0	0.8	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石	16.4	6.7	0.2	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

砥石觀察表

種別	長さ(単位)			径			刃部	柄部	石部	目録	出土位置	備考
	全長	幅	厚	全径	柄径	刃径						
石	11.0	11.5	4.7	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—
石	11.0	11.5	4.3	2.8	—	—	—	—	—	—	—	—
石	11.0	11.0	4.5	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—
石	11.0	11.0	4.5	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—
石	11.0	11.0	4.5	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—
石	11.0	11.0	4.5	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—
石	11.0	11.0	4.5	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—

軽石製品觀察表

種別	長さ(単位)			径			刃部	柄部	石部	目録	出土位置	備考
	全長	幅	厚	全径	柄径	刃径						
石	17.0	15.0	0.5	3.0	1	—	—	—	—	—	—	—
石	17.0	15.0	0.5	3.0	1	—	—	—	—	—	—	—

玉類觀察表

種別	長さ(単位)	幅(単位)	厚(単位)	径(単位)	重量(重量)	出土位置	備考
石	11.0	0.5	0.8	0.1	0.1	1.5-1	観察用
石	11.0	0.5	0.8	0.2	0.2	1.5-1	観察用
石	11.0	1.0	0.5	0.2	0.2	1.5-1	観察用

紡錘車觀察表

種別	長さ(単位)	幅(単位)	厚(単位)	径(単位)	重量(重量)	出土位置	備考
石	13.0	0.6	0.7	0.4	0.1	1.5-1	観察用



7



9



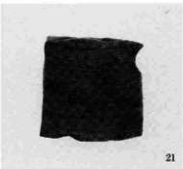
13



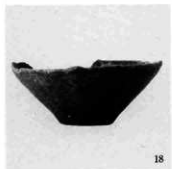
14



19



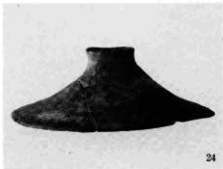
21



18



23



24



25



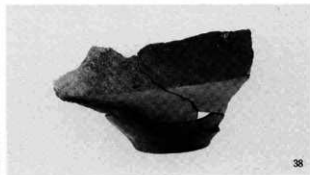
26



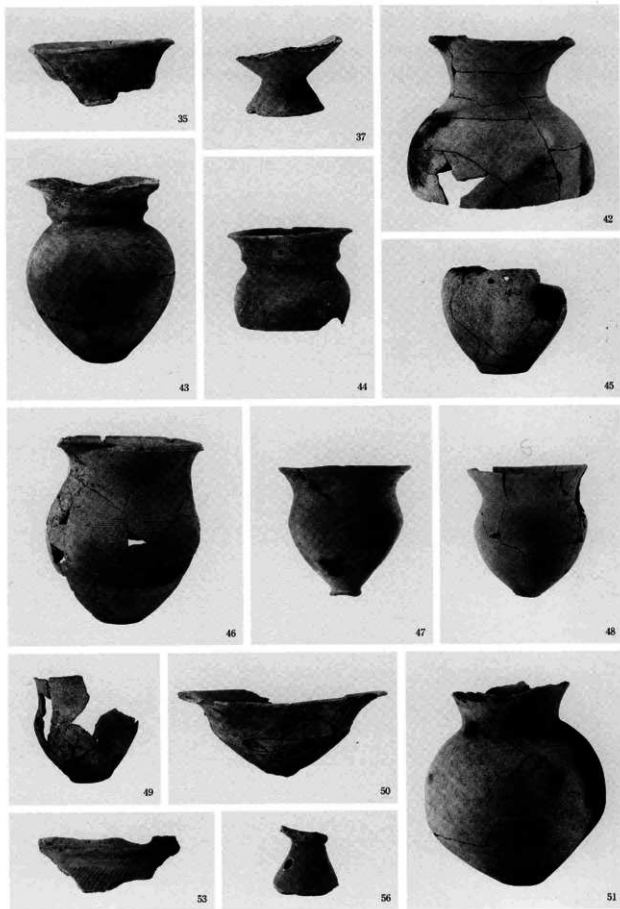
27

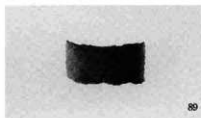
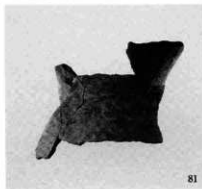
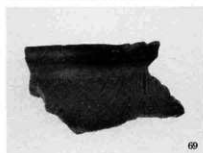


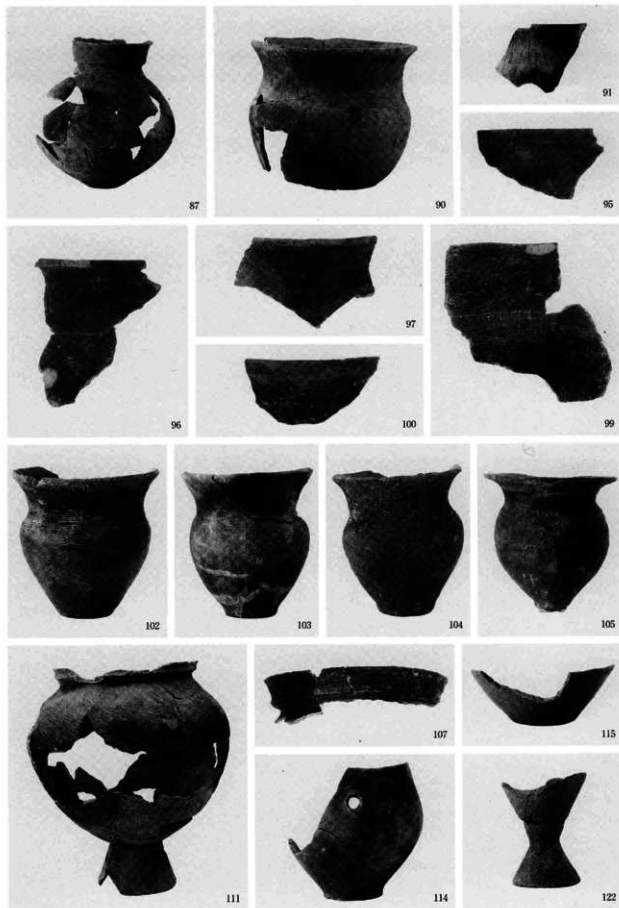
34

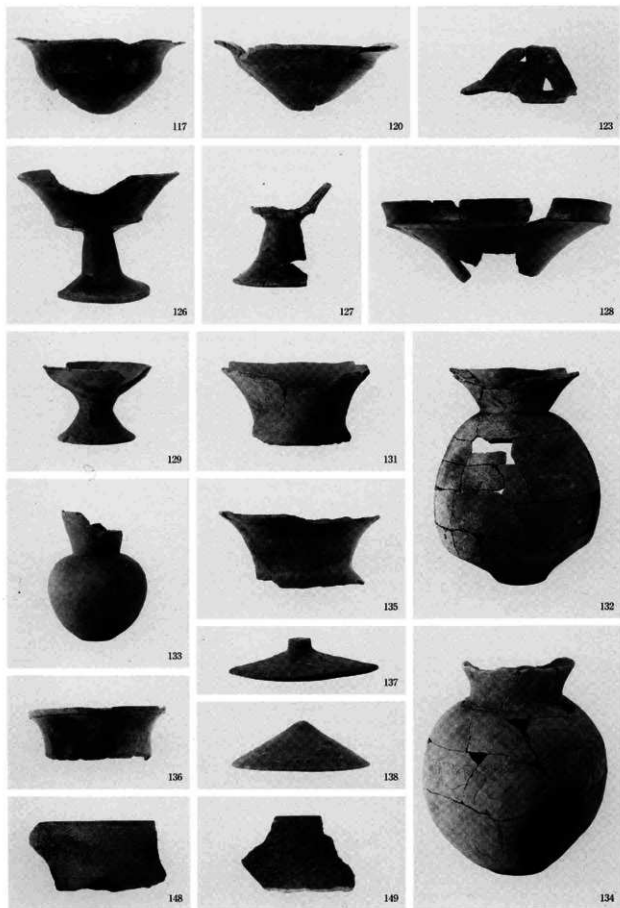


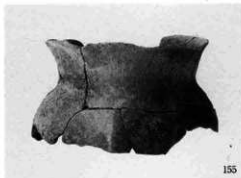
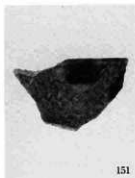
38

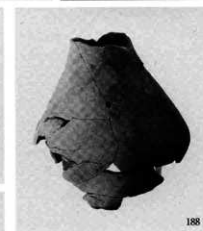
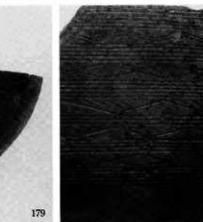
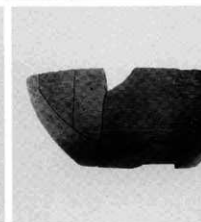
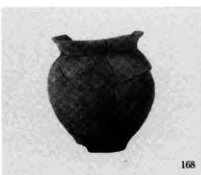














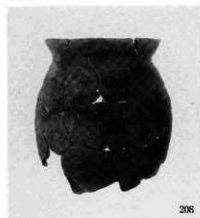
192



194



196



208



197



198



199



209



200



213



214



216



212



219



225



218



220



226



228



223



230



232



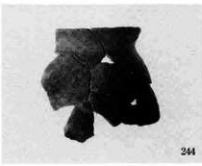
233



235



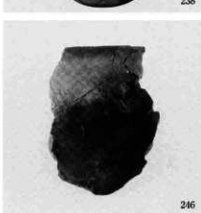
238



244



243



246



245



255



265



269



279



280



282



284



285



286



292



293



297



301



304



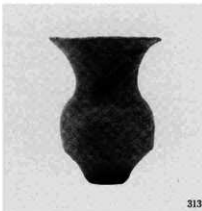
305



309



312



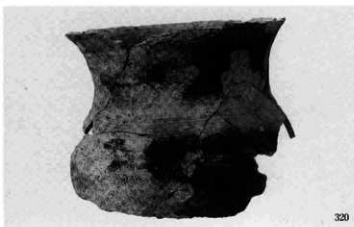
313



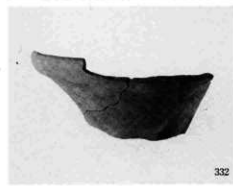
314



317



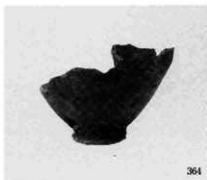
320







362



364



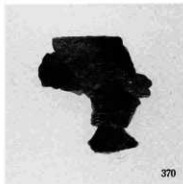
367



368



369



370



371



372



373



374



375



376



377



378



380



381



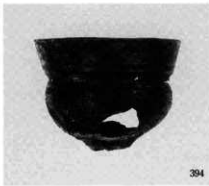
386



390



391



394



395



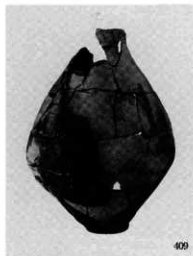
396



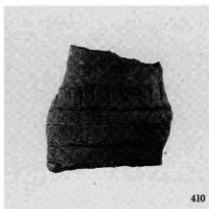
397



406



409



410



411



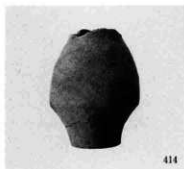
415



417



419



414



418



421



422



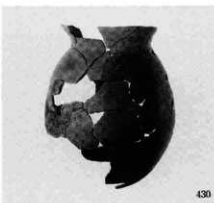
424



425



427



430



432



433



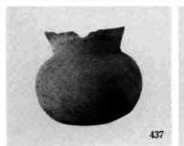
434



435



436



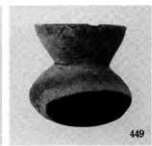
437



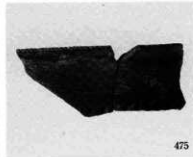
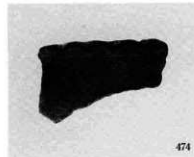
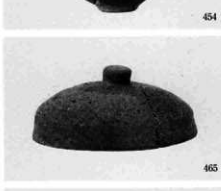
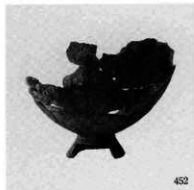
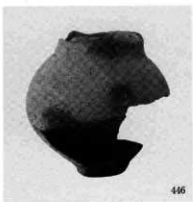
447

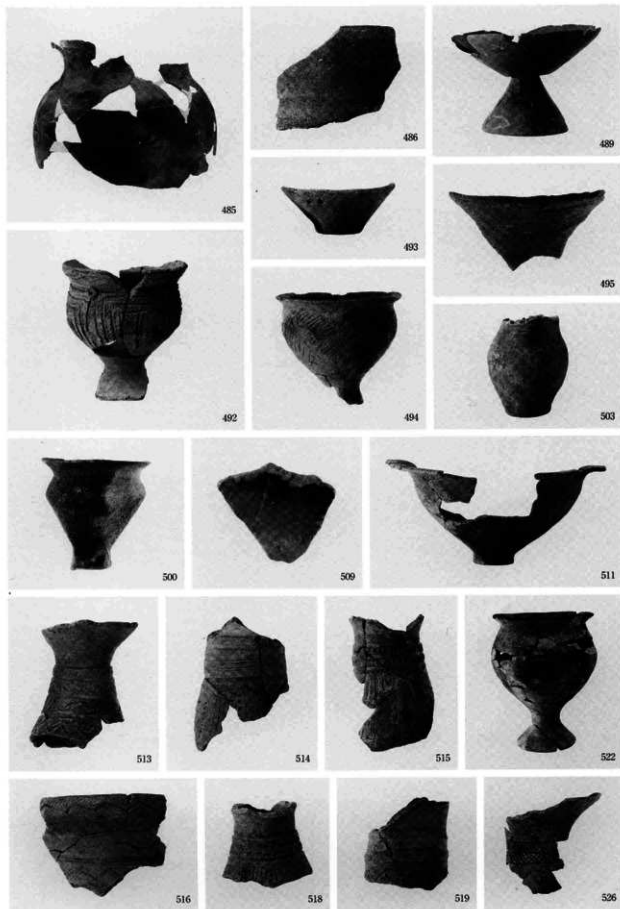


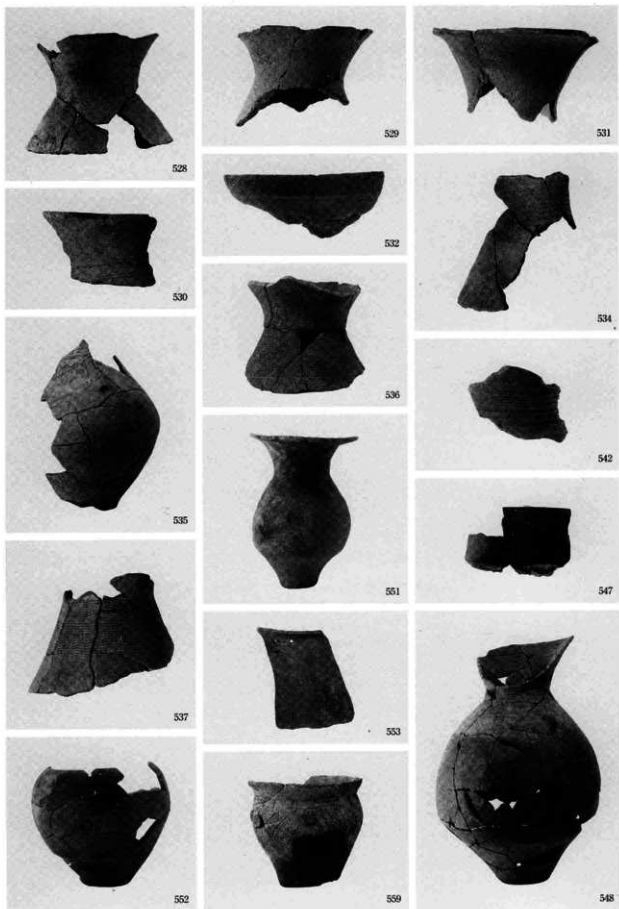
448

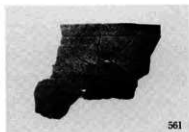
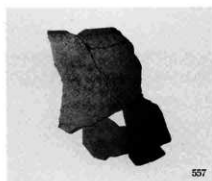


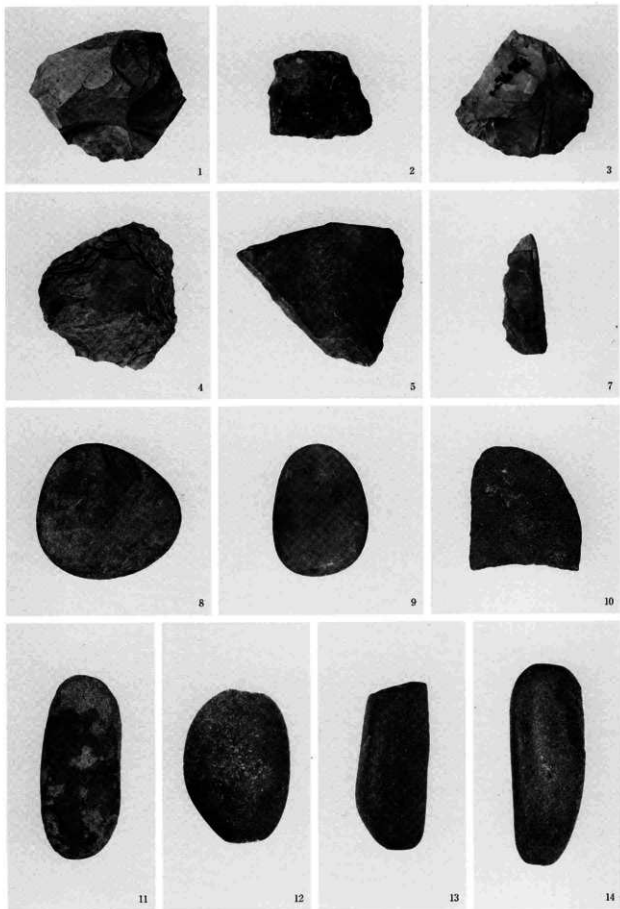
449

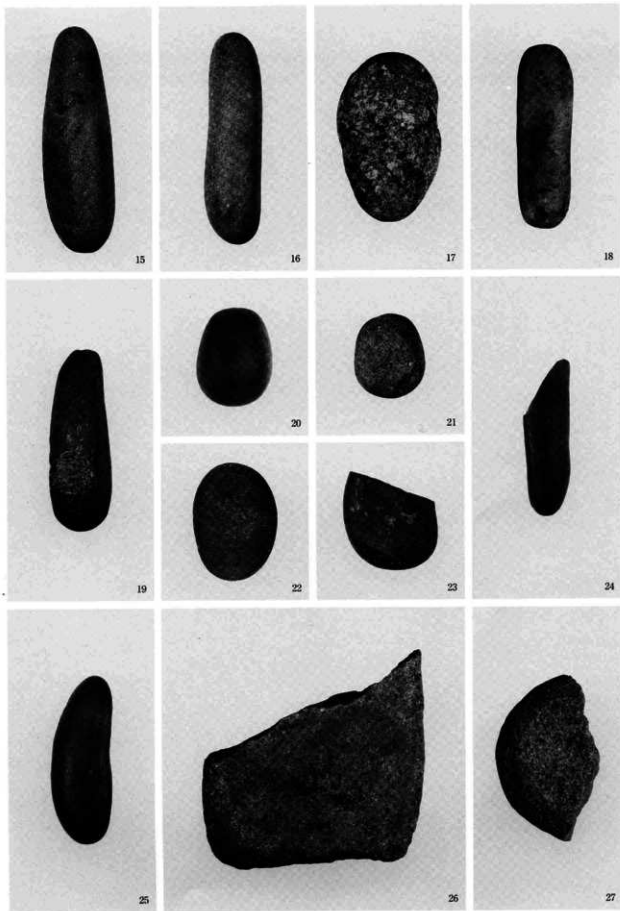














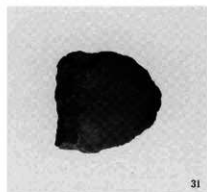
28



29



30



31



33



34



35



36



38



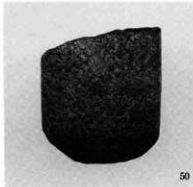
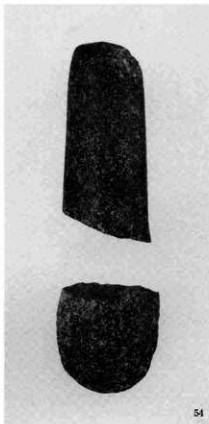
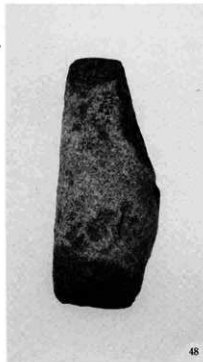
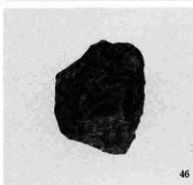
37



39



40





55



56



57



51



58



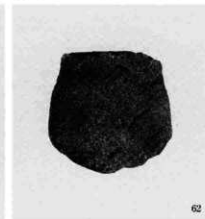
59



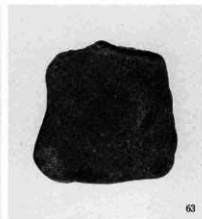
60



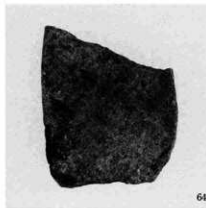
61



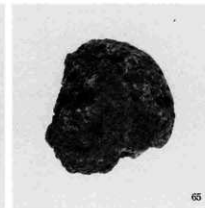
62



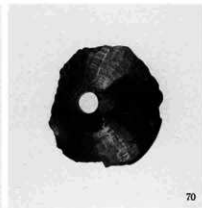
63



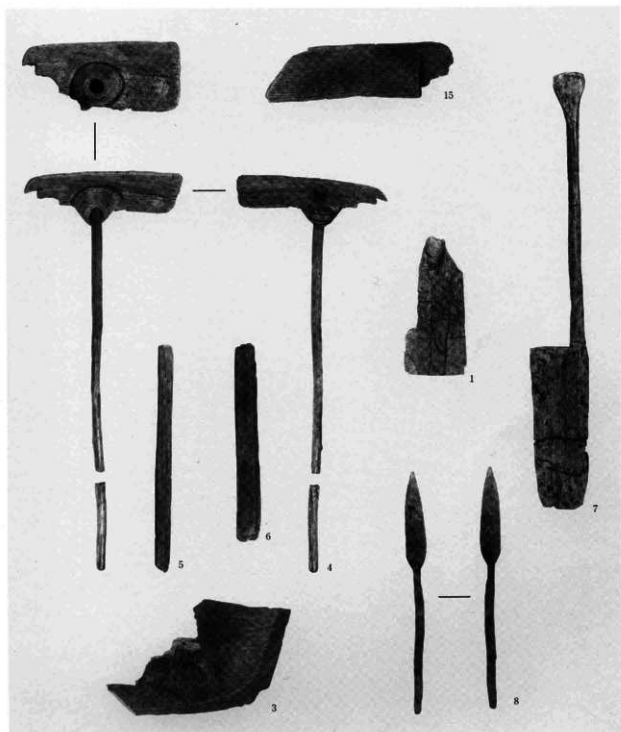
64

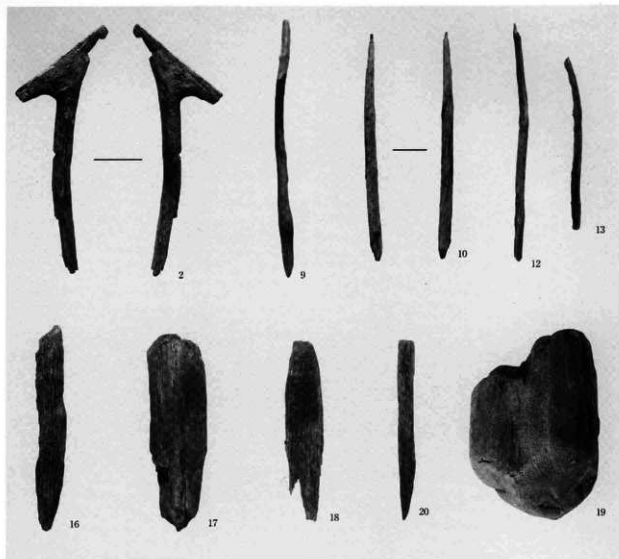


65



70





木器A



木器復元レプリカ
 (長野市立博物館)
 左 表
 右 裏

報告書抄録

ふりがな	こじまやなぎはらいせきぐん みのちましますいちげんじんじゃいせき						
書名	小島柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡						
副書名	—柳原市民体育館建設地点—						
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財						
シリーズ番号	第88集						
編著者名	千野浩・矢口忠良・多羅沢美恵子・橋本達也・汐見 真・岡田文男						
編集機関	長野市教育委員会埋蔵文化財センター						
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106						
発行年月日	1998（平成10）年3月30日						
印刷所	ほおずき書籍株式会社（長野市柳原2133-5）						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		経緯度 （日本測地系）	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡				
水内坐 一元神社遺跡	長野県長野市大字小島 字三ツ家沖823他	20201	B-003	北緯 36°39'11" 東経 138°15'29"	19960524 ～ 19960809	1000㎡	市民体育 館建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
水内坐一元 神社遺跡	集落跡	弥生時代中期	大溝 1条	栗林式土器・石器・土偶	居住域不明		
		弥生時代後期	竪穴住居址 4軒	吉田式・箱清水式・北陸系土器・装飾木盾・槍先・弓・平鉄・鋤・櫛他木製品	環濠集落・武器形木製品を伴う祭祀		
			土塋 14基 環濠（大溝） 2条				
		弥生時代後期 終末～古墳時代前期	土塋 2基	箱清水式系・北陸系・東海系土器	大溝4層の土器、居住域不明		
		古墳時代中・後期	土塋 3基	土師器・須恵器	大溝3・2層の土器、居住域不明		

長野市の埋蔵文化財第88集

小島柳原遺跡群

水内坐一元神社遺跡Ⅲ

平成10年3月25日 印刷

平成10年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会
発行 長野市埋蔵文化財センター
印刷 ほおずき書籍株式会社